

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2022年1月から3月
2. 調査対象：小樽市内の企業272社
3. 内 訳：製造業62、卸売業27、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業46
サービス業39、建設業34
4. 回答企業数：182社（66.9%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概 況

— まん延防止等重点措置や、原材料費の高騰によって低調に推移 —

前年同期（2021年1月～3月）と比べた今期（2022年1月～3月）の状況
今期と比べた来期（2022年4月～6月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは▲33.1で、前年同期と比べ1.5ポイント上昇しました。新型コロナウイルスオミクロン株の流行に伴うまん延防止等重点措置の適用や、原材料価格や仕入価格の高騰により、業況は低調に推移しました。原材料価格や仕入価格、燃料費の高騰が深刻な状況にあります。

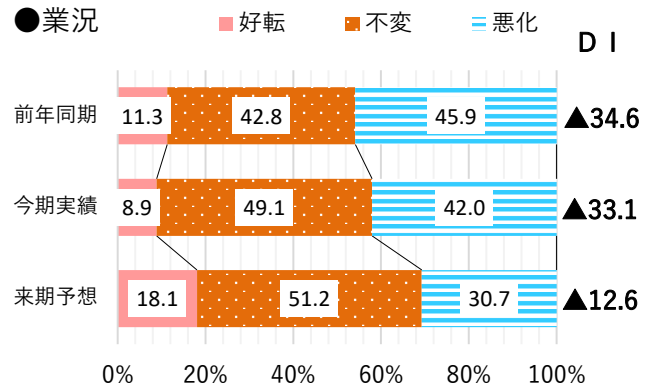
業種別DIは、製造業が同8.9ポイント低下の▲33.3となりました。売上DI、採算DI、資金繰りDIのいずれも低下しました。売上単価DIはプラスに転じましたが、9割超の企業で仕入単価が上昇しており、売上単価の引き上げに迫られているものの、十分な価格転嫁ができていない状況にあります。卸売業は同1.7ポイント上昇の▲35.0となりました。売上DI、採算DIはどちらも低調に推移しました。売上単価DIと仕入単価DIが大幅に上昇しており、製造業同様に、売上単価を上げざるを得ない状況にあると思われます。小売業は同25.5ポイント低下の▲44.0となりました。売上DI、採算DIも同様に低下しました。客数の減少傾向は緩和されたものの、依然として減少が続いています。仕入単価の上昇傾向が大幅に強まりました。運輸・倉庫業は同7.9ポイント低下の▲41.2となりました。燃料価格の高騰が、業況に大きく影響しています。前年同期比の売上DIは、貨物運送と倉庫で悪化傾向が強まりましたが、旅客運送では大幅に改善しました。観光業は同40.4ポイント上昇の▲41.9となりました。業況、売上、採算に大幅な改善が見られましたが、全てマイナス水準にとどまりました。利用客数はプラスに転じ、客単価の下降傾向も弱まりましたが、仕入単価の上昇傾向が高まっており、依然として苦しい状況にあります。サービス業は同13.8ポイント上昇の▲20.8となりました。売上DI、採算DI、利用客数DI、資金繰りDIも上昇し、好転傾向が見られますが、他業種同様、仕入単価の上昇傾向が大幅に強まりました。建設業の業況DIは横ばいの▲15.4となりました。受注額DIはプラスに転じましたが、材料仕入単価DIは大幅に上昇しており、採算の悪化や、従業員の不足が課題です。

来期の業況判断DIは▲12.6で、悪化傾向が弱まると予想しています。卸売業では業況の横ばいを予想していますが、他業種では悪化傾向の緩和を予想しています。新型コロナウイルスによる需要の停滞が続く懸念がある他、ロシアによるウクライナ侵攻の影響で、各種原材料や製品の仕入価格の上昇傾向が一層強まることが危惧されています。

業況、売上、採算

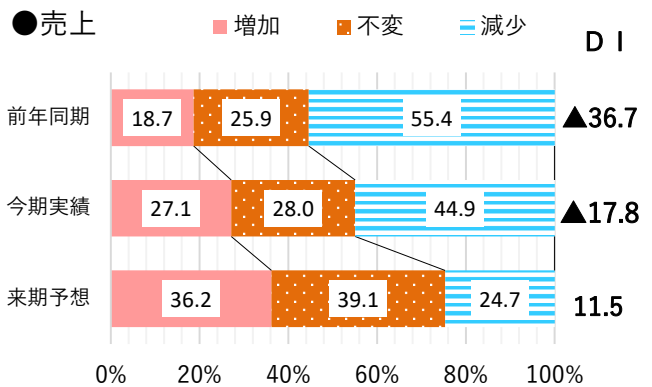
今期（2022.1～3）の業況判断DIは▲33.1で、前年同期(2021.1～3)と比べ1.5ポイント上昇しました。

来期（2022.4～6）は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



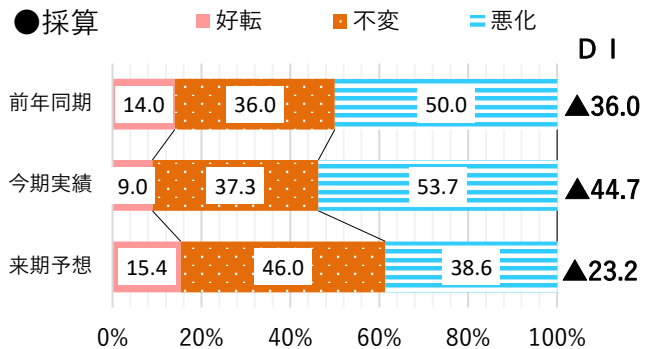
今期の売上DIは▲17.8で、前年同期と比べ18.9ポイント上昇しました。

来期は、売上がプラスに転じると予想しています。

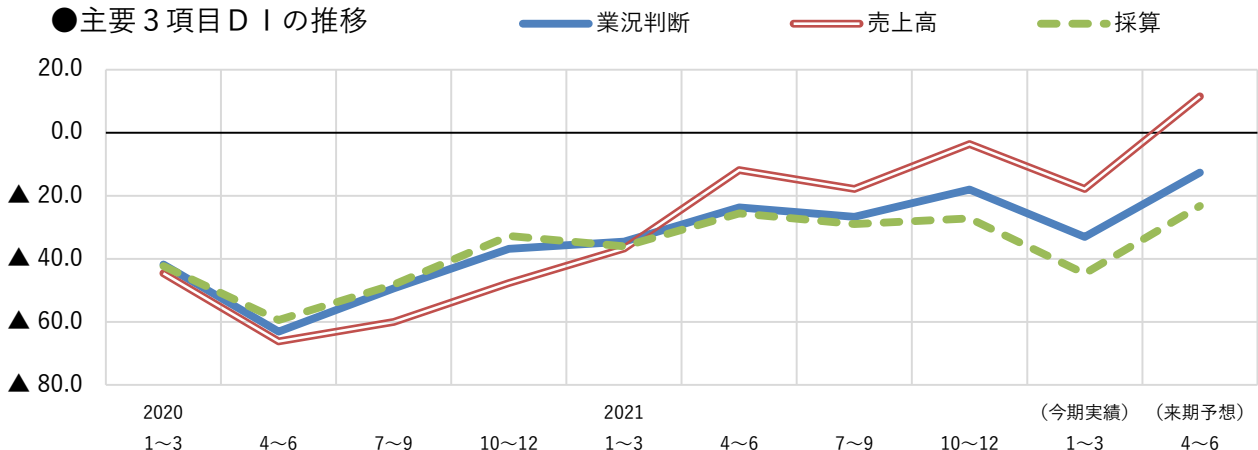


今期の採算DIは▲44.7で、前年同期と比べ8.7ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



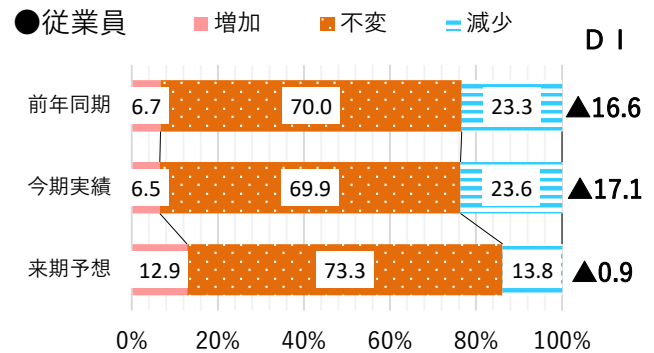
●主要3項目DIの推移



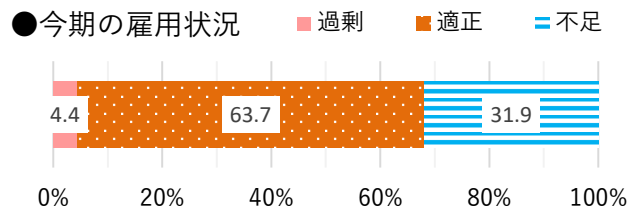
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲17.1で、前年同期と比べ0.5ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は4.4%、適正であると回答した企業の割合は63.7%、不足していると回答した企業の割合は31.9%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、全業種の47.8%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	8
	不足	5
不変だった	過剰	5
	適正	87
	不足	30
減少した	過剰	4
	適正	18
	不足	25

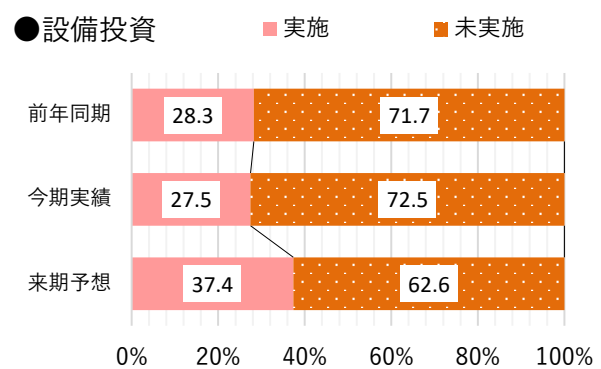
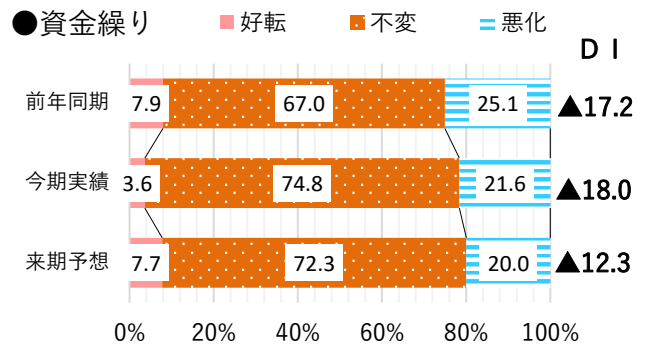
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲18.0で、前年同期と比べ0.8ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。

新規設備投資の動向では、回答のあった182社の27.5%にあたる50社が実施、前年同期と比べ0.8%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「OA機器」の順です。

来期は、37.4%にあたる68社が設備投資を計画していると回答しています。

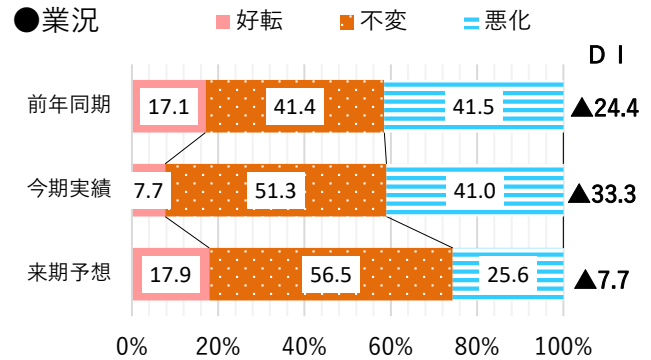


製造業

業況、売上、採算

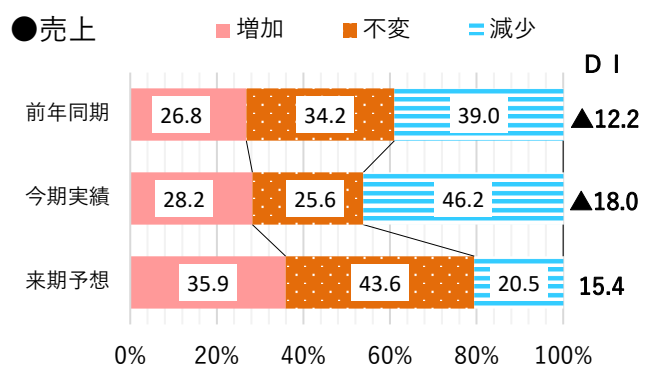
今期(2022.1~3)の業況判断DIは▲33.3で、前年同期(2021.1~3)と比べ8.9ポイント低下しました。

来期(2022.4~6)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



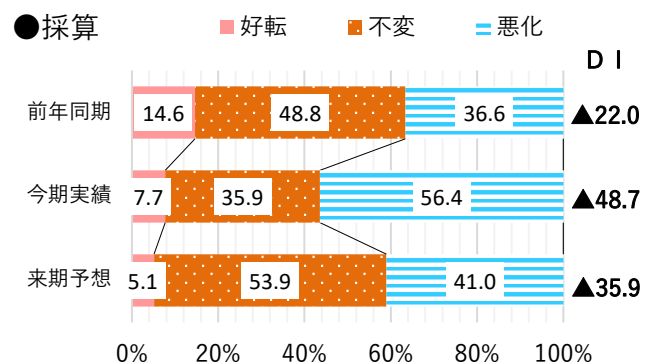
今期の売上DIは▲18.0で、前年同期と比べ5.8ポイント低下しました。

来期は、売上が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。

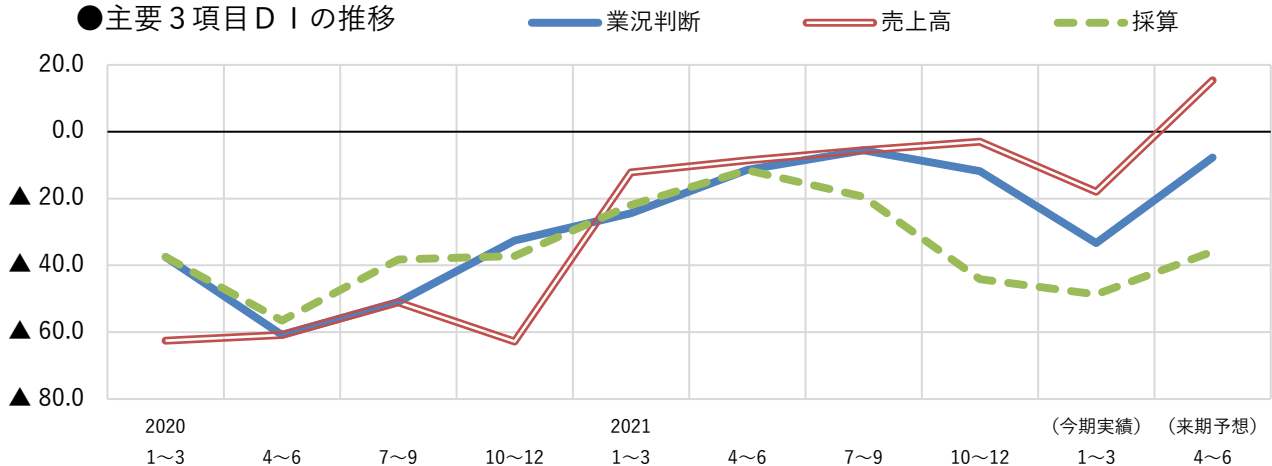


今期の採算DIは▲48.7で、前年同期と比べ26.7ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



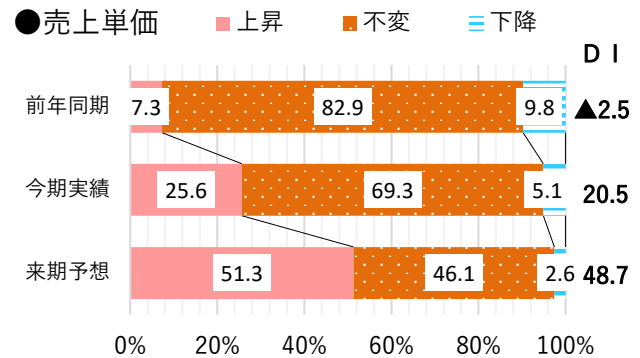
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

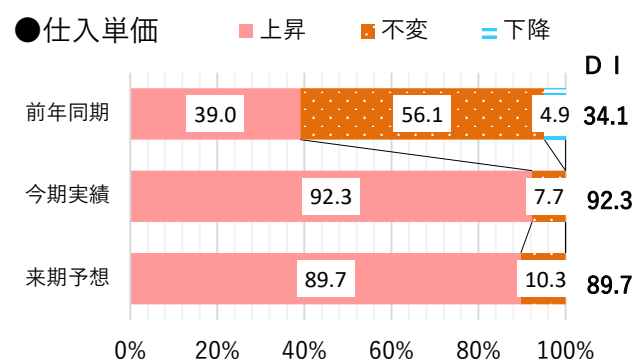
今期の売上単価DIは20.5で、前年同期と比べ23.0ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上単価の上昇傾向が強まると予想しています。



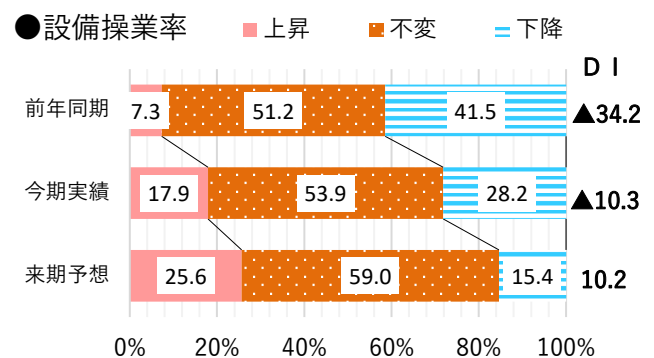
今期の仕入単価DIは92.3で、前年同期と比べ58.2ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の設備操業率DIは▲10.3で、前年同期と比べ23.9ポイントと大幅に上昇しました。

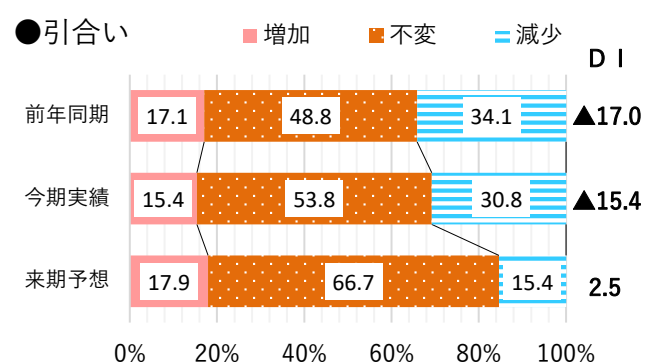
来期は、設備操業率がプラスに転じると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲15.4で、前年同期と比べ1.6ポイント上昇しました。

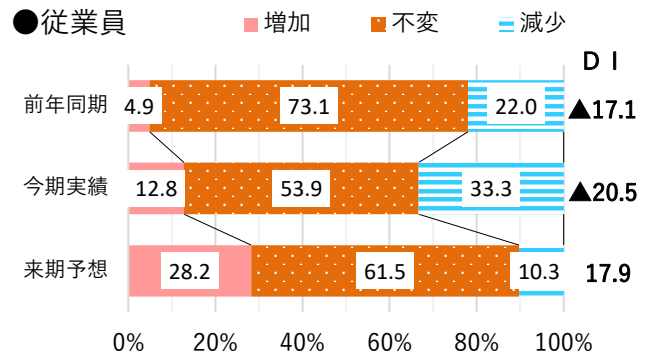
来期は、引合いがプラスに転じると予想しています。



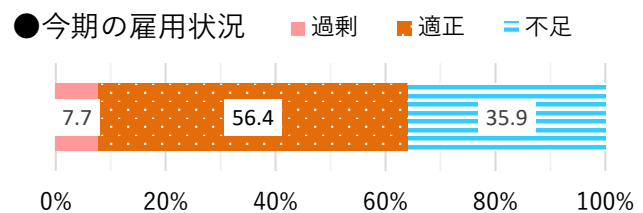
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲20.5で、前年同期と比べ3.4ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は7.7%、適正であると回答した企業の割合は56.4%、不足していると回答した企業の割合は35.9%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の35.8%を占めています。

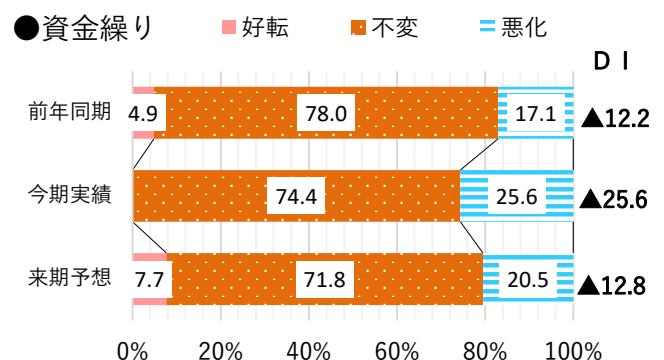
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	2
不変だった	過剰	2
	適正	14
	不足	5
減少した	過剰	1
	適正	5
	不足	7

資金繰り、設備投資

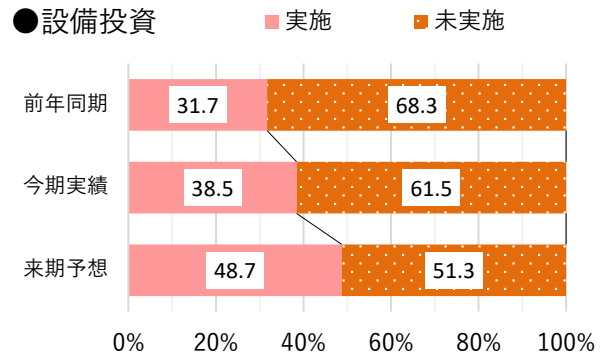
今期の資金繰りDIは▲25.6で、前年同期と比べ13.4ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



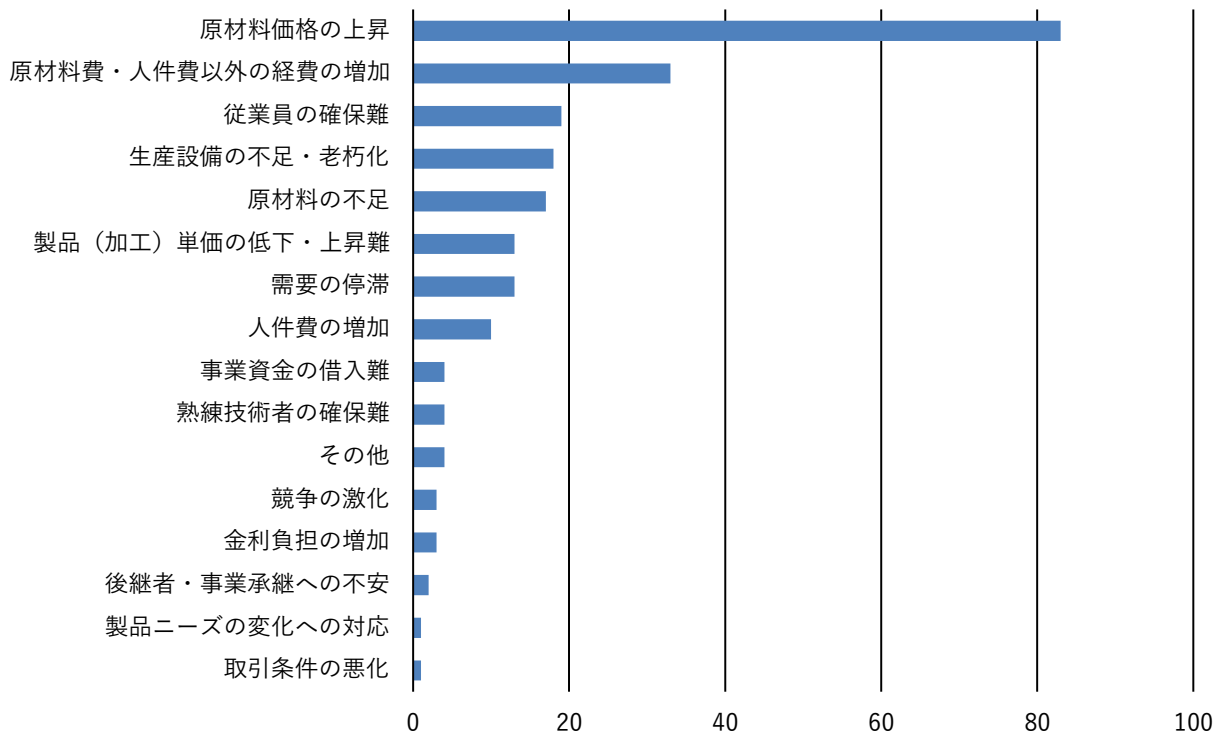
設備投資を実施した企業の割合は38.5%で、前年同期と比べ6.8%上昇しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「車両運搬具」、「付帯施設」、「OA機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は48.7%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「原材料費・人件費以外の経費の増加」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 生産や売上は予定通り推移しているが、全体量が少ないことに加え、原価の上昇によって利益率が悪化しており、実績値としては不足感が否めない。（金属製品）
- 石油やガス、原材料価格の上昇に価格転嫁が追いつかず、利益が大幅に減少している。（金属製品）
- コロナ禍により、売上が減少した。（金属製品）
- 年初から新型コロナウイルスのオミクロン株の感染が急拡大したことで、消費が急激に落ち込んだ。昨年後半から原材料や包装資材など、各種仕入価格やエネルギー価格が上昇しているが、ロシアによるウクライナ侵攻の影響で上昇傾向が加速し、打つ手がない状況だ。（食料品）

- 売上が1割程度減少し、原材料仕入価格、包装資材、運賃、光熱費等経費は全て増加した。(食料品)
- まん延防止等重点措置により売上が伸び悩み、昨年同期と同程度の業績だった。(食料品)
- 原材料仕入価格の上昇と売上の減少によって、最悪の状況にある。(食料品)
- 水産加工原料が潤沢に輸入され、コロナ禍の影響もほぼなかった。(食料品)
- コロナ禍におけるECが好調で、売上が増加した。(食料品)
- 原材料仕入価格が上昇した。(食料品)
- 売上が増加した。(食料品)
- 新型コロナウイルスによる業況悪化から回復できていない。水産、農業、流通等全ての分野で需要が減少した。2021年3月以降、原材料の価格高騰、供給量減少、メーカーによる値上げによって仕入価格は50%以上上昇した。現在も価格交渉を続けている。販売価格への転嫁は10%程度で、反映時期も遅れているため、採算は悪化している。従業員の採用は実施していない。(プラスチック)
- 原油価格高騰により、原材料費、電気料金、暖房費、ガソリン代が増加した。得意先への価格転嫁は抵抗が強いので進んでおらず、採算は厳しい。(プラスチック)
- 原油高により原材料価格が高騰し、公共事業の減少により売上が減少しているが、商品価格の引き上げは難しく、苦しい状況にある。(プラスチック)
- 大手受注先からの受注減少や、仕入価格の上昇により業況が悪化した。(その他繊維製品)
- まん延防止等重点措置により、飲食店での酒類の提供が規制され、売上が伸び悩んだ。(飲料)
- まん延防止等重点措置の延長により、売上は伸び悩んだ。(飲料)
- 新型コロナウイルスの影響が今なお続き、業況は好転しなかった。(医薬品)

[来期の業況について]

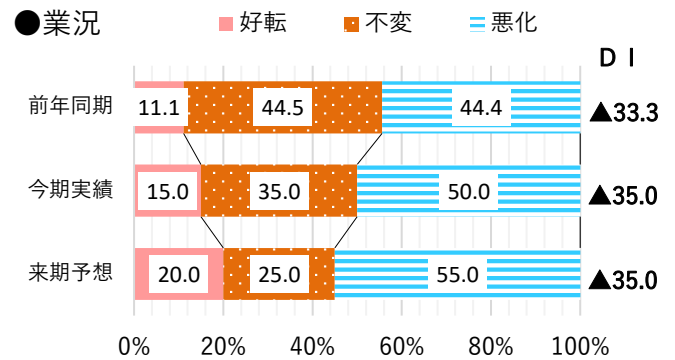
- 札幌駅前再開発に関する引き合いが本格化しているが、手元の受注が増加するまで時間がかかると思う。原材料仕入価格は、元々の上昇傾向に加え、世界情勢の悪化による上昇が懸念される。(金属製品)
- 受注はあるが、原材料価格の上昇と従業員不足により、利益の減少は免れない。(金属製品)
- 需要の回復は見込めない。商品の値上げによって売上は伸びると思うが、商圏の縮小を危惧している。ロシアのウクライナ侵攻によって、原材料仕入価格は、2021年3月比で180%程度上昇すると思われる。価格転嫁は難しく、大手流通企業への販売の場合は特に厳しい。(プラスチック)
- ロシアのウクライナ侵攻により、業況の悪化が継続すると考えられる。2021年度より厳しい状況になると思う。(プラスチック)
- 今期と同じ水準で推移するだろう。(プラスチック)
- コロナ禍のため不透明感は強いが、回復を見込む。(ゴム製品)
- 新商品の開発と、販路拡大を目指す。(ゴム製品)
- コロナ禍に伴う行動制限で、営業活動が思うようにできない可能性を危惧している。(その他繊維製品)
- ロシアによるウクライナ侵攻によって、ロシアからの水産物の輸入減少や、原材料価格の高騰を懸念している。原材料値上げ分の価格転嫁ができるかどうかによって、業績が大きく左右される。(食料品)
- 売上は回復に向かうと思うが、原材料仕入価格の上昇に伴う収益の悪化を懸念している。製品価格を引き上げなければならないが、上げ幅をどうするべきか悩んでいる。(食料品)
- 各商品の値上げを実施しているが、末端小売業の抵抗が強く、市場の消費の力強さが感じられないことから、値上げの効果は予見できない。(食料品)
- ロシアによるウクライナ侵攻の影響で、ロシア産海産物の輸入量が減少すれば、原材料価格の高騰が見込まれる。(食料品)
- 原材料仕入単価の上昇傾向が続く。(食料品)
- 業況は今期より悪化すると思う。(食料品)
- 売上の増加を見込む。(食料品)
- ゴールデンウィークに向けた販売戦略によって、売上の増加が期待できる。(飲料)
- コロナ禍前の売上の9割程度まで回復を見込んでいる。(飲料)
- まん延防止等重点措置の再要請がなければ、好転が期待できる。(医薬品)

卸 売 業

業況、売上、採算

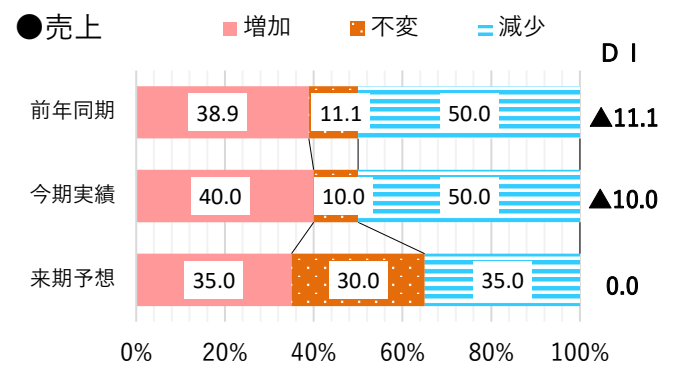
今期(2022.1~3)の業況判断DIは▲35.0で、前年同期(2021.1~3)と比べ1.7ポイント上昇しました。

来期(2022.4~6)は、業況の横ばいを予想しています。



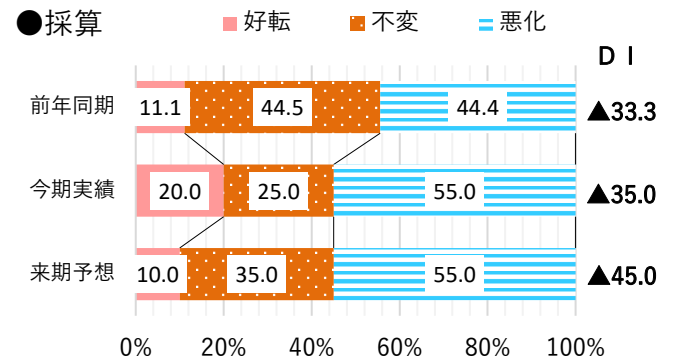
今期の売上DIは▲10.0で、前年同期と比べ1.1ポイント上昇しました。

来期は、売上の減少傾向が弱まると予想しています。

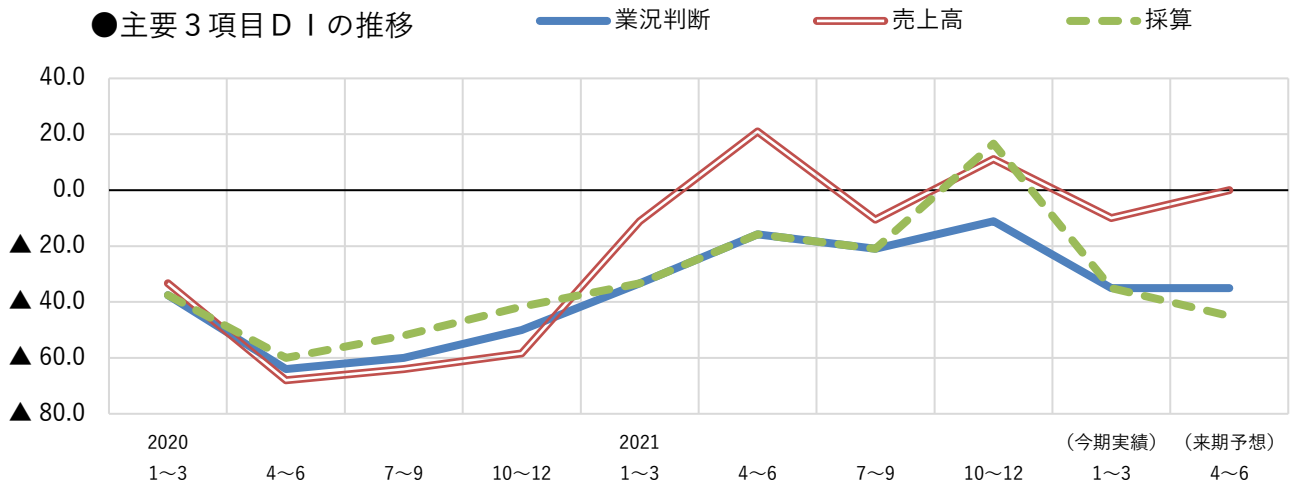


今期の採算DIは▲35.0で、前年同期と比べ1.7ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



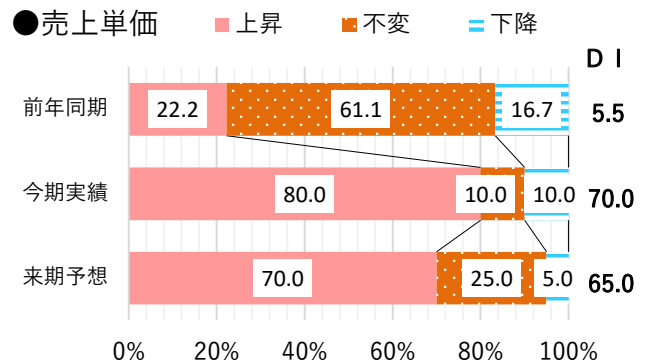
●主要3項目DIの推移



売上単価、商品仕入単価

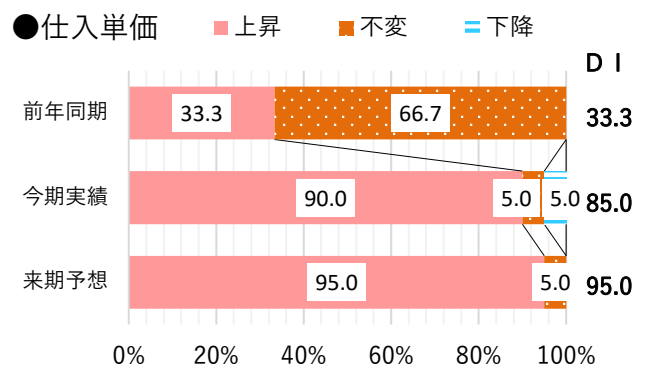
今期の売上単価DIは70.0で、前年同期と比べ64.5ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の仕入単価DIは85.0で、前年同期と比べ51.7ポイントと大幅に上昇しました。

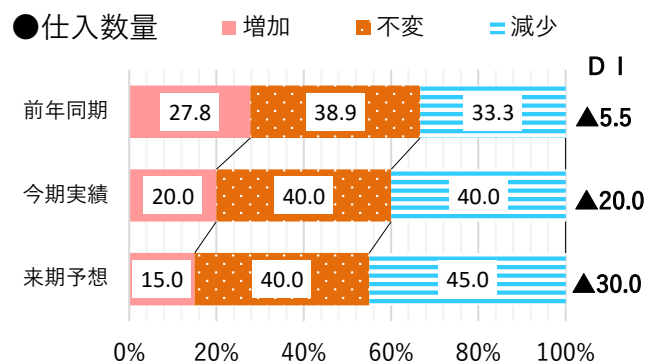
来期は、仕入単価の上昇傾向が強まると予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

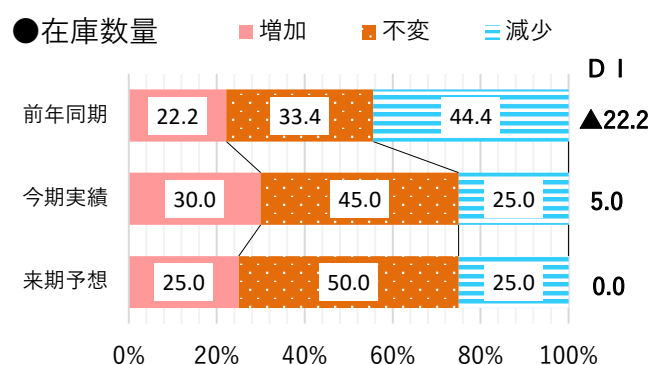
今期の仕入数量DIは▲20.0で、前年同期と比べ14.5ポイント低下しました。

来期は、仕入数量の減少傾向が強まると予想しています。



今期の在庫数量DIは5.0で、前年同期と比べ27.2ポイント上昇し、プラスに転じました。

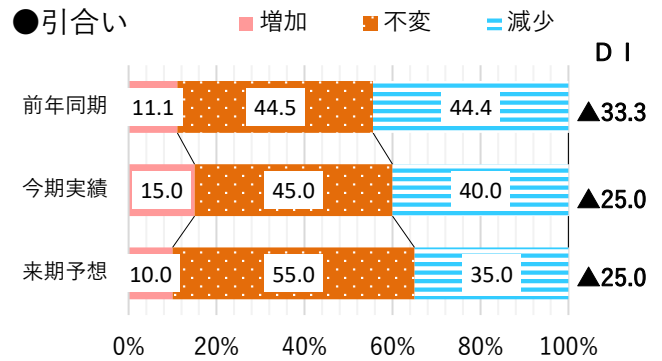
来期は、在庫数量に大きな変化はないと予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲25.0で、前年同期と比べ8.3ポイント上昇しました。

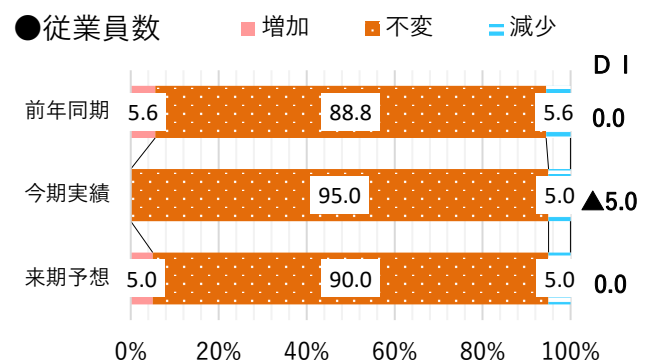
来期は、引合いの横ばいを予想しています。



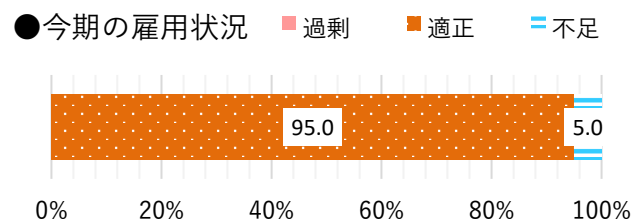
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲5.0で、前年同期と比べ5.0ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は95.0%、不足していると回答した企業の割合は5.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の90.0%を占めています。

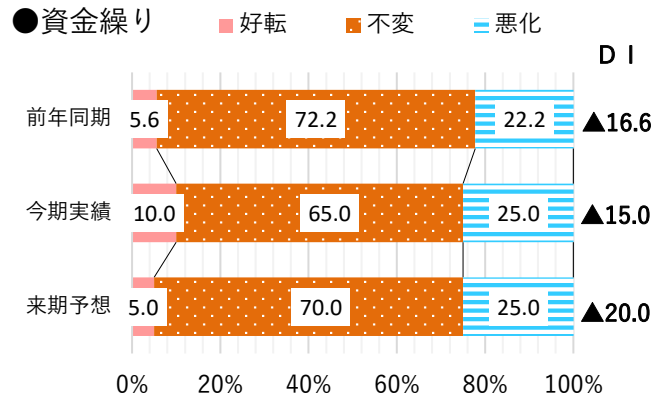
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、充足している」（同位）という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	18
	不足	1
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	0

資金繰り、設備投資

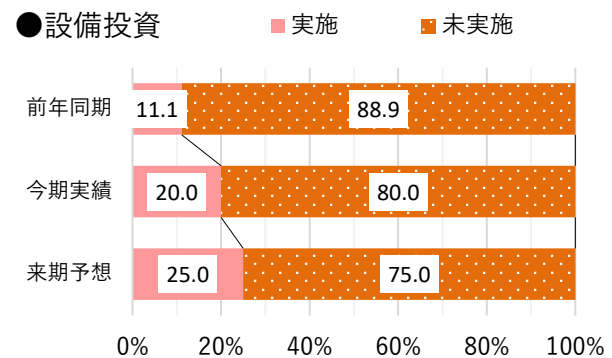
今期の資金繰りDIは▲15.0で、前年同期と比べ1.6ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が続くと予想しています。



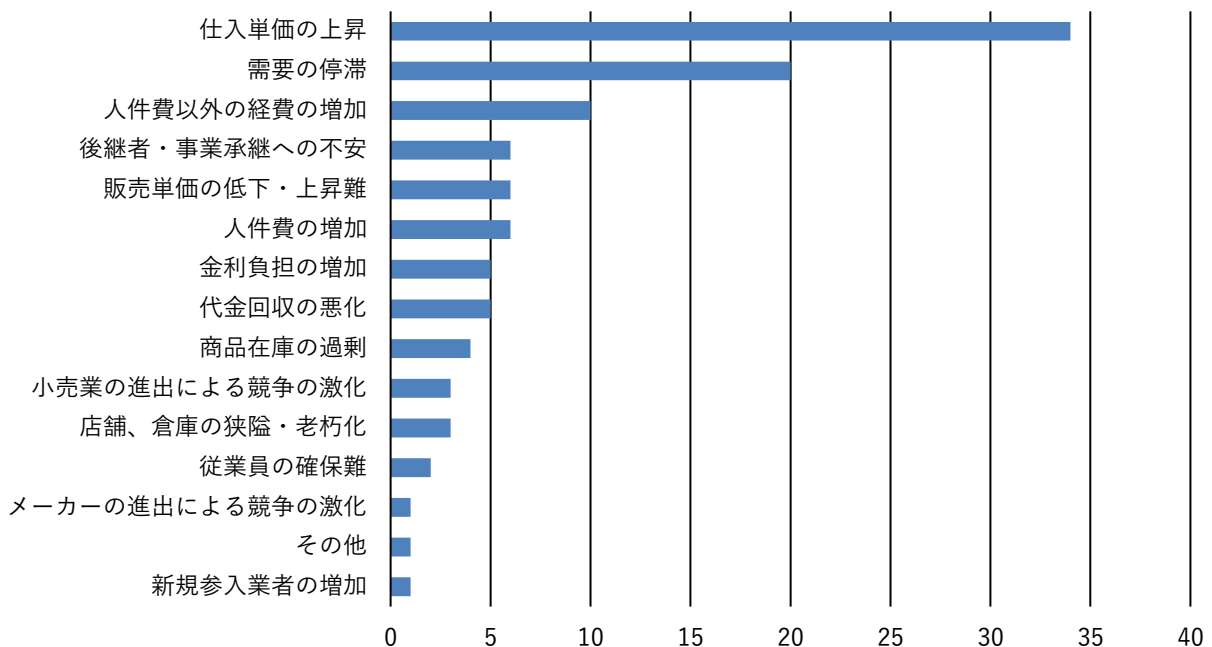
設備投資を実施した企業の割合は20.0%で、前年同期と比べ8.9%増加しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「店舗」、「OA機器」（同位）でした。

来期に設備投資を計画している企業の割合は25.0%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「需要の停滞」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 原油価格が上昇傾向にあるため、仕入価格が上昇した。売上も増加したが、仕入価格の上昇分全てを転嫁できている訳ではないため、利益は減少した。(石油卸売)
- 新幹線工事が遅れ、売上の伸び悩みを危惧したが、高規格道路の工事で売上は増加した。(建築材料卸売)
- 2月の降雪量が少なかったため、冬期用品の売上は伸び悩んだが、ディーゼルエンジン用の製品が品不足のため、価格が上昇し、売上につながった。自動車部品の原材料が不足しており、新車の製造が遅れている代わりに、中古車市場が伸長しているようだ。(自動車部品卸売)
- 冬は例年需要が落ち込むことを考慮しても、販売量の減少傾向を強く感じる。(鉱物・金属材料卸売)
- 水産系の機械器具を扱っているので、赤潮等の影響で売上が減少した。(産業用機械器具卸売)
- 半導体不足により商品を納入できず、売上が減少した。(事務用品卸売)
- 売上の減少や商品仕入単価の上昇により、業況は悪化した。(食料・飲料卸売)
- 仕入価格が相次いで値上げしたが、販売価格に転嫁できたため、売上は増加した。更なる値上げの動きもあるが、今後は転嫁できるか不安だ。(塗料販売)

[来期の業況について]

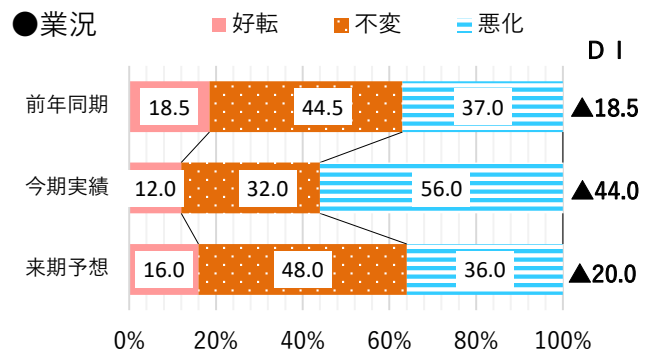
- 原油価格の上昇が続くが、価格転嫁が不十分な状況も続くため、利益の増加は期待できない。(石油卸売)
- 新幹線のトンネル工事が予定されているが、資材や原材料の大幅な不足が予想される。(建築材料卸売)
- 仕入単価の上昇分を販売価格に転嫁する予定だが、販売数量は減少するだろう。(鉱物・金属材料卸売)
- 仕入単価の上昇により、採算が悪化すると思われる。(食料・飲料卸売)

小 売 業

業況、売上、採算

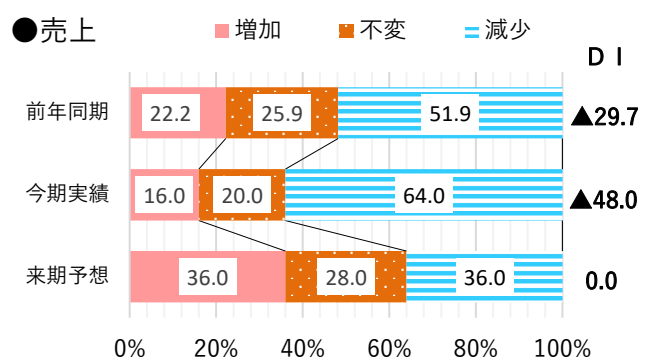
今期(2022.1~3)の業況判断DIは▲44.0で、前年同期(2021.1~3)と比べ25.5ポイント低下しました。

来期(2022.4~6)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



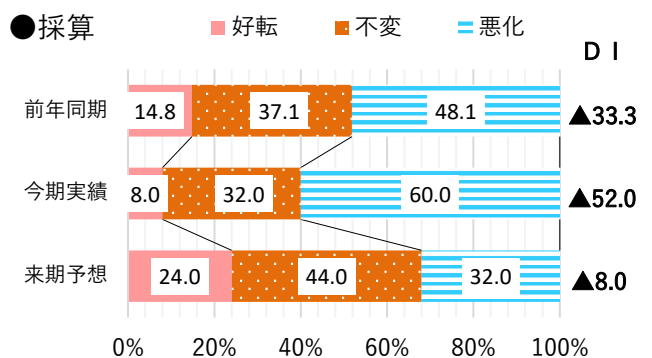
今期の売上高DIは▲48.0で、前年同期と比べ18.3ポイント低下しました。

来期は、売上の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。

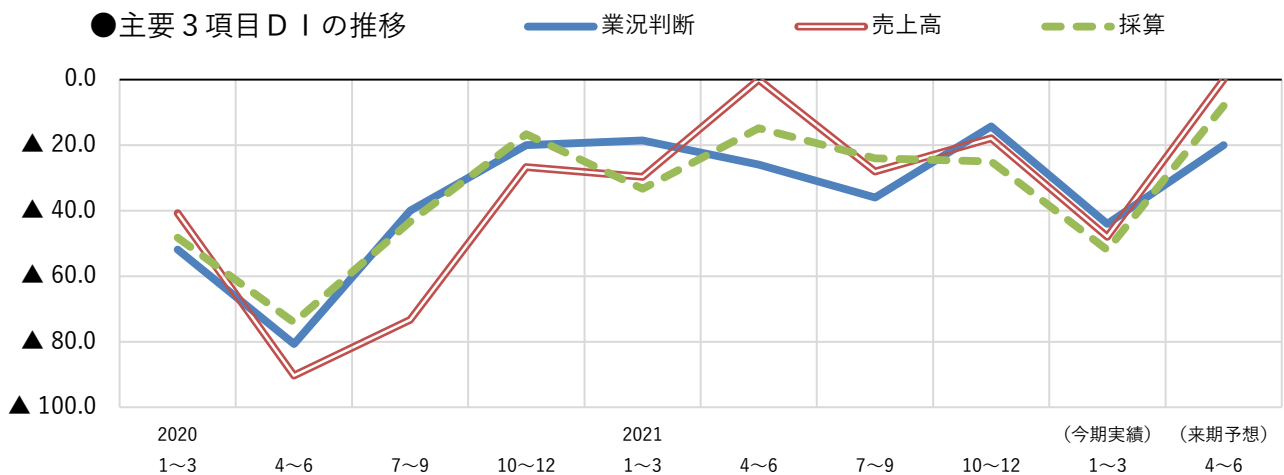


今期の採算DIは▲52.0で、前年同期と比べ18.7ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



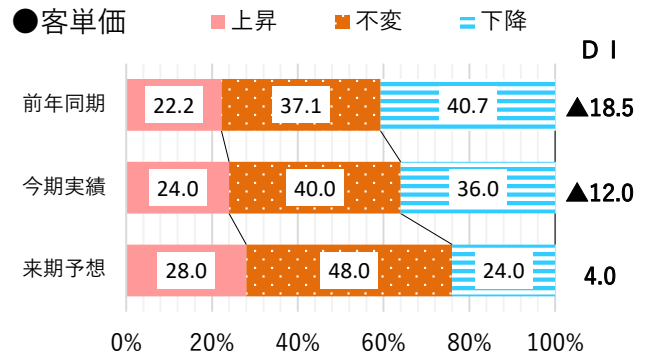
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

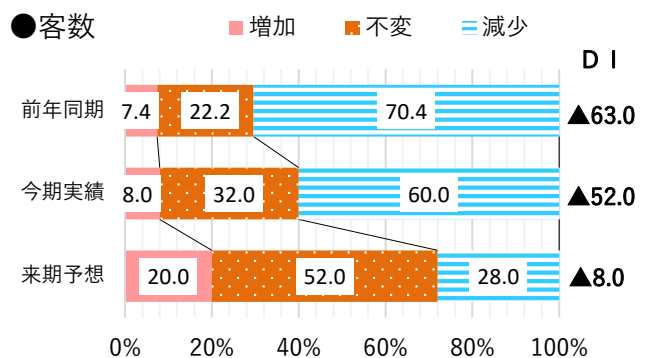
今期の客単価DIは▲12.0で、前年同期と比べ6.5ポイント上昇しました。

来期は、客単価がプラスに転じると予想しています。



今期の客数DIは▲52.0で、前年同期と比べ11.0ポイント上昇しました。

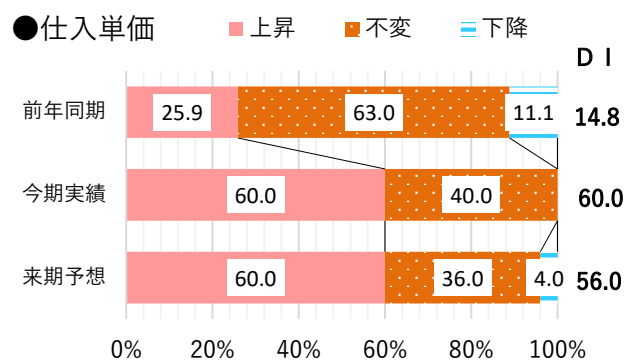
来期は、客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

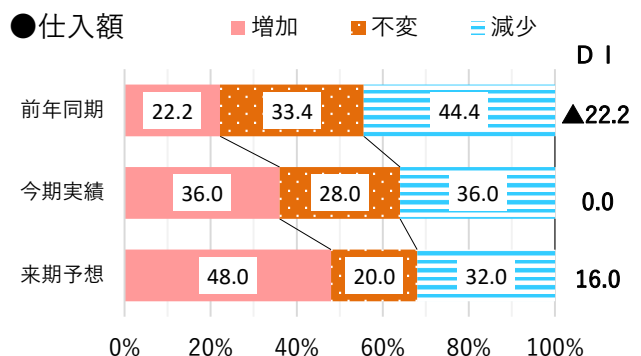
今期の仕入単価DIは60.0で、前年同期と比べ45.2ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



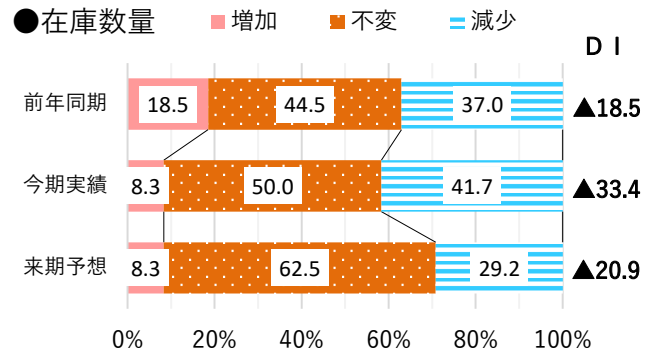
今期の仕入額DIは0.0で、前年同期と比べ22.2ポイント上昇しました。

来期は、仕入額がプラスに転じると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲33.4で、前年同期と比べ14.9ポイント低下しました。

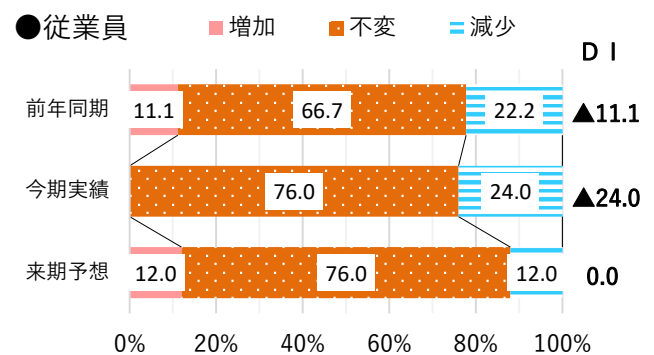
来期は、在庫数量の減少傾向が続くと予想しています。



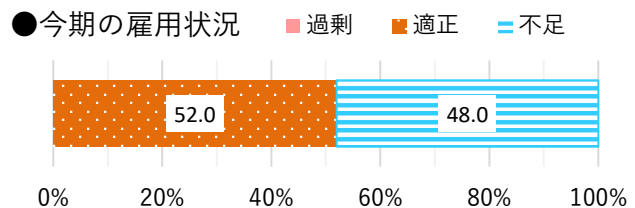
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲24.0で、前年同期と比べ12.9ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は52.0%、不足していると回答した企業の割合は48.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の40.0%を占めています。

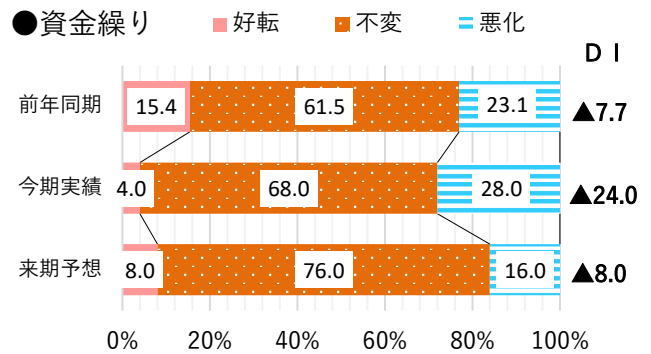
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	10
	不足	9
減少した	過剰	0
	適正	3
	不足	3

資金繰り、設備投資

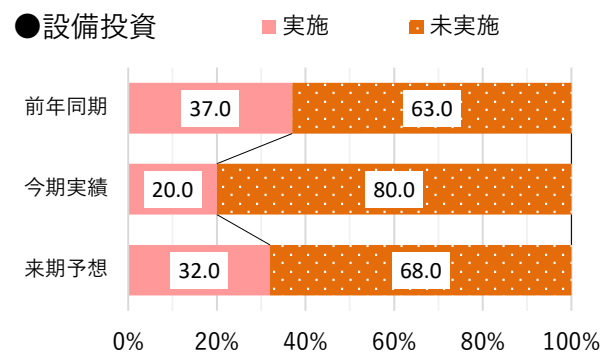
今期の資金繰りDIは▲24.0で、前年同期と比べ16.3ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



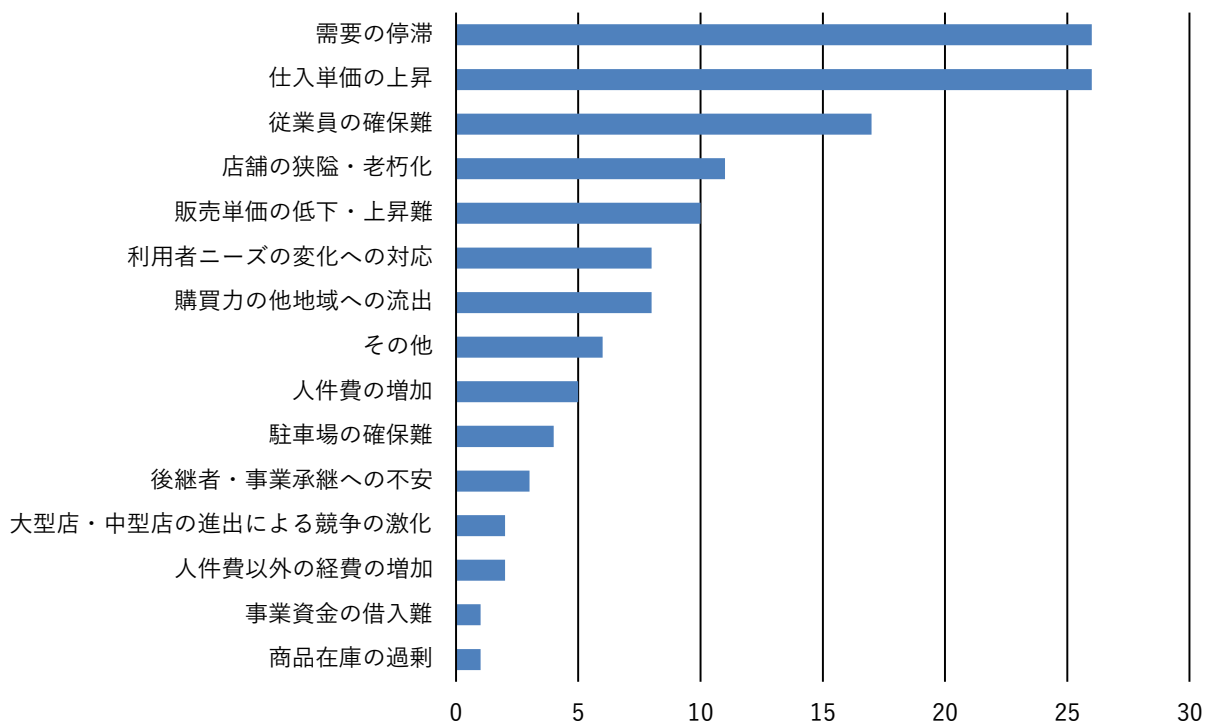
設備投資を実施した企業の割合は20.0%で、前年同期と比べ17.0%低下しました。投資内容は1位が「販売設備」、

「付帯施設」(同位)、2位が「OA機器」、「その他」(同位)の順です。来期に設備投資を計画している企業の割合は32.0%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「需要の停滞」、「仕入単価の上昇」(同位)、2位が「従業員の確保難」、3位が「店舗の狭隘・老朽化」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- まん延防止等重点措置の影響が大きく、外食産業、宿泊施設向けの売上が大きく減少した。措置は解除されたが、感染不安は続いており、回復まで時間がかかると思う。(食料品小売)
- コロナ禍で札幌近郊からの来客が減少しており、年明けから売上の減少が続いている。(食肉小売)
- コロナ禍だが、注文数は減少しておらず、オンラインショップが好調だった。(菓子製造小売)
- 客数に大きな変化はないが、客単価が下降傾向にある。腕時計は、ここ数年3万円前後の商品が売れ筋だったが、近年は1~2万円の商品が売れている。宝石や貴金属も、コロナ禍により女性の集まるイベント等が減少し、売れていない。(衣服・身の回り品小売)
- 人材を確保できず、販売機会を喪失しているため、売上は横ばいだった。利益率は若干低下した。(衣服・身の回り品小売)
- 1月は乗り切ることができたが、2月中旬以降の業況は大幅に悪化している。(衣服・身の回り品小売)
- 仕入単価が上昇した。客数は増加したが、売上に変化はない。(衣服・身の回り品小売)
- 東欧情勢の悪化に伴い、原油価格の高騰が続いており、今後の予測が立たない。(燃料小売)
- 新車の受注を受けても、生産が遅れているため、売上の計上も遅れている。自動車の点検、修理を担うサービスエンジニアが不足している。(自動車小売)
- コロナ禍の影響は無いが、物価上昇や戦争等、先行きの不安から新規客が減った。(自動車小売)
- 半導体不足とコロナ禍による海外の都市封鎖により、商品や部品の欠品、未達が生じた。(自動車小売)
- 仕入単価が高止まりしている。(自動車小売)
- 大雪による客数の減少で、業況は悪化した。(家電量販店)
- 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、客単価の上昇傾向と来店回数の減少傾向を感じていたが、市民がコロナ禍での生活に慣れたのか、昨今は客数の増加傾向を感じる。(大型店)
- 長引くコロナ禍やオミクロン株の流行により、外出控えが続いており、売上と客数は減少傾向にある。市民の来店頻度を上げるため、店内のレイアウトを変更した。(大型店)
- 衣料品、生活用品の売上が減少したが、食品は伸長した。(大型店)
- 商品仕入価格が上昇したため、粗利が減少した。(コンビニ)
- 売上は持ち直しているが、まだ低い水準にある。(ドラッグストア)
- 売上の減少により、セールスの開催予定を変更した。(ホームセンター)

[来期の業況について]

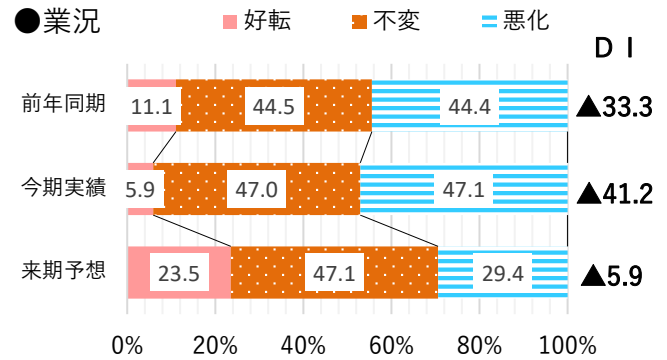
- まん延防止等重点措置が解除されたことで、売上の一部回復が期待できる。店頭販売は、観光客等の需要が見込める。(食料品小売)
- コロナ禍が終息し、小樽観光が立ち直らなければ、より苦しい状況になると思う。(食肉小売)
- コロナ禍が終息に向かわなければ、業況は現状維持または悪化を見込む。顧客の所得が下降傾向にあるため、生活必需品への支出が中心となり、贅沢品への支出が減り続けると思う。(衣服・身の回り品小売)
- 東欧の情勢悪化で仕入価格が上昇すれば、利益が減少する。(衣服・身の回り品小売)
- 急激な変化はないと思う。利益率の改善が課題となる。(衣服・身の回り品小売)
- 好転の見通しは立たない。(衣服・身の回り品小売)
- 戦争の動向とガソリンの価格は、利用客数の増減に関わるので注視する。従業員の待遇改善等、働き方改革が急務だと考えている。(自動車小売)
- 新車の納期が遅れると思われる。(自動車小売)
- 売上の増加、客単価の上昇を見込む。(家電量販店)
- 賃金の引き上げにより、短時間勤務の従業員の時間管理が重要となり、社員に負担となる。(大型店)
- コロナ禍が終息すれば業況の好転に期待できるが、物価上昇とインフレが懸念される。(大型店)
- 来店頻度を上げる試みが功を奏し、業況が好転するよう期待している。(大型店)
- 東欧の戦争により石油価格が上昇すれば、関連商品の値上げが懸念される。(コンビニ)
- コロナ禍や、ロシアとウクライナの戦争によって仕入単価が上昇する可能性が高い。(ドラッグストア)
- 1年程度業況の悪化が続くのではないかと懸念している。(ホームセンター)

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

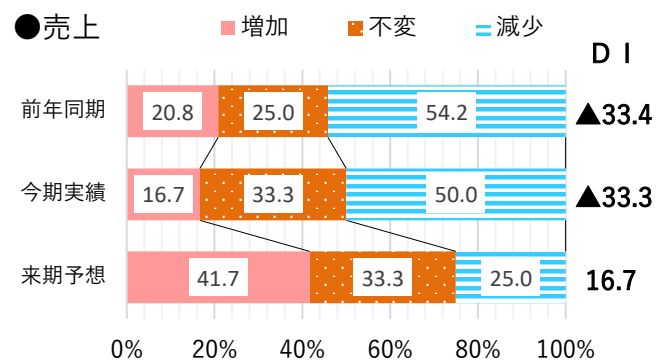
今期（2022.1～3）の業況判断DIは▲41.2で、前年同期（2021.1～3）と比べ7.9ポイント低下しました。

来期（2022.4～6）は、業況の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



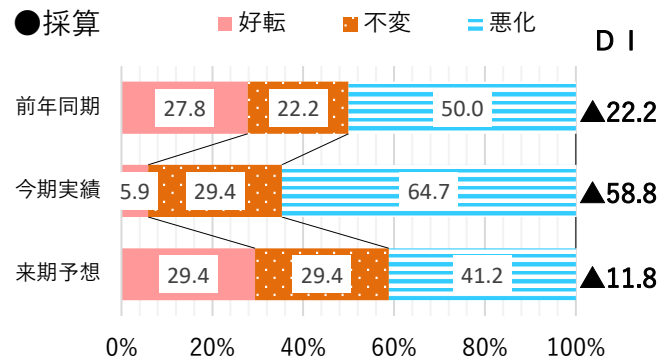
今期の売上高DIは▲33.3で、前年同期と比べ0.1ポイント上昇しました。

来期は、売上が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。

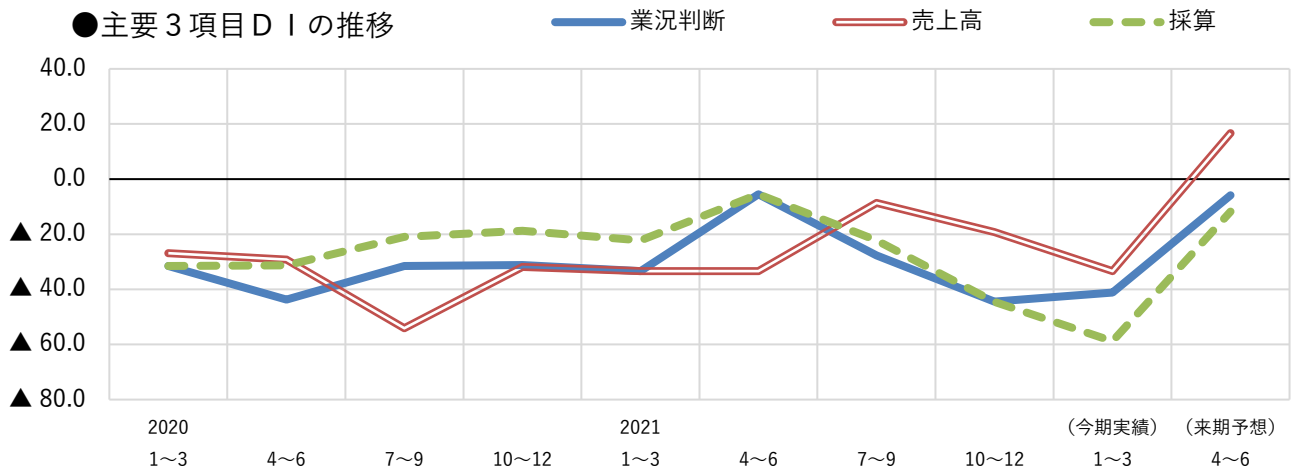


今期の採算DIは▲58.8で、前年同期と比べ36.6ポイントと大幅に低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



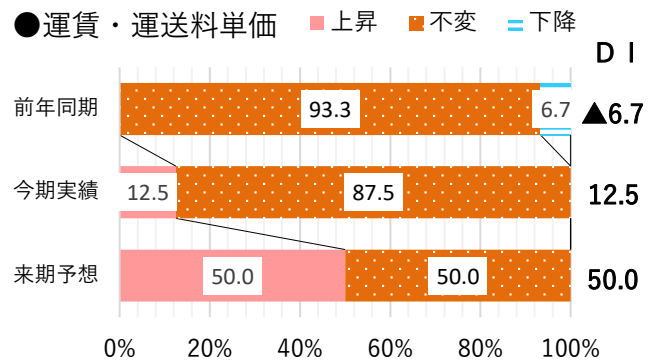
●主要3項目DIの推移



運賃・運送料単価、保管料単価

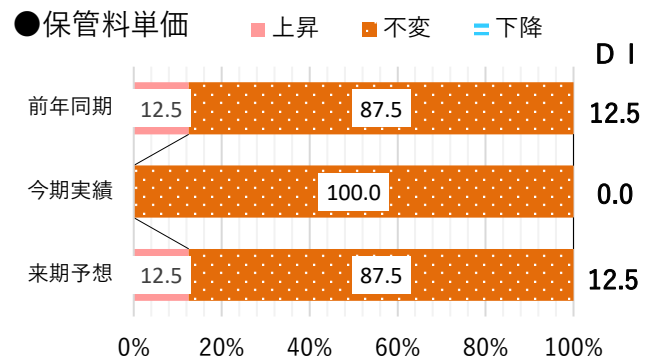
今期の運賃・運送料単価DIは12.5で、前年同期と比べ19.2ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、運賃・運送料単価の上昇傾向が大幅に強まると予想しています。



今期の保管料単価DIは0.0で、前年同期と比べ12.5ポイント低下しました。

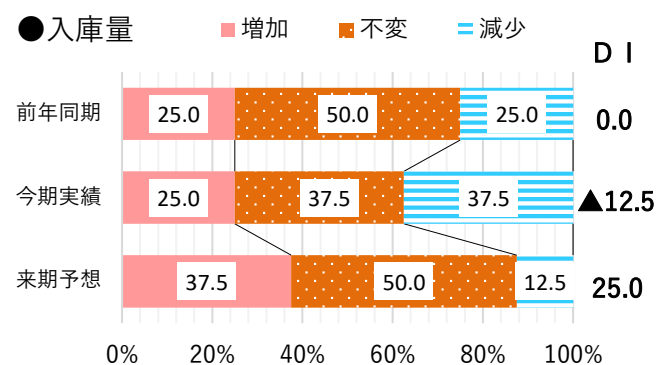
来期は、保管料単価がプラスに転じると予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

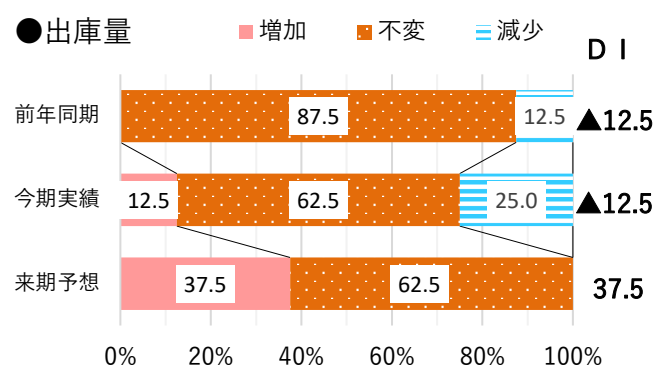
今期の入庫量DIは▲12.5で、前年同期と比べ12.5ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、入庫量が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。



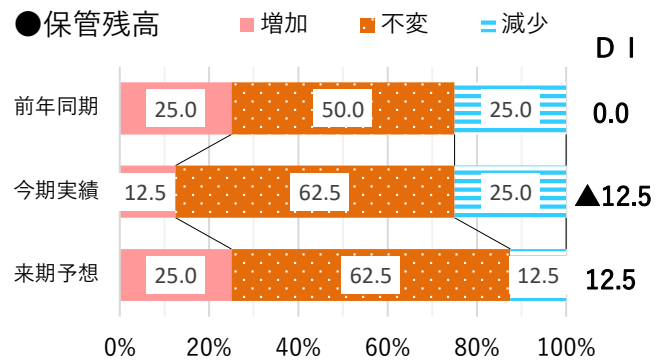
今期の出庫量DIは▲12.5で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

来期は、出庫量が大幅なプラスに転じると予想しています。



今期の保管残高DIは▲12.5で、前年同期と比べ12.5ポイントと低下し、マイナスに転じました。

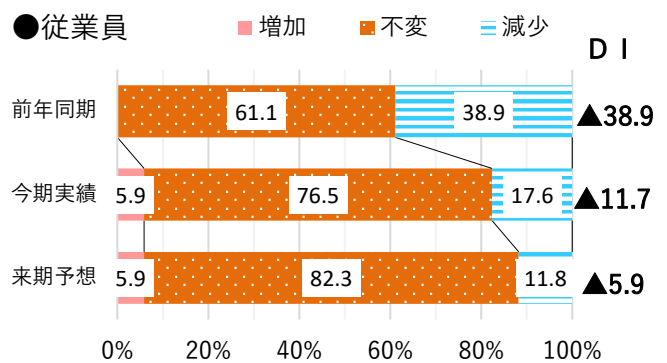
来期は、保管残高がプラスに転じると予想しています。



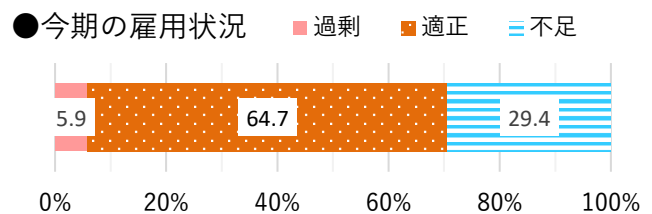
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲11.7で、前年同期と比べ27.2ポイント上昇しました。

来期は、従業員の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は5.9%、適正であると回答した企業の割合は64.7%、不足していると回答した企業の割合は29.4%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、運輸・倉庫業全体の47.0%を占めています。

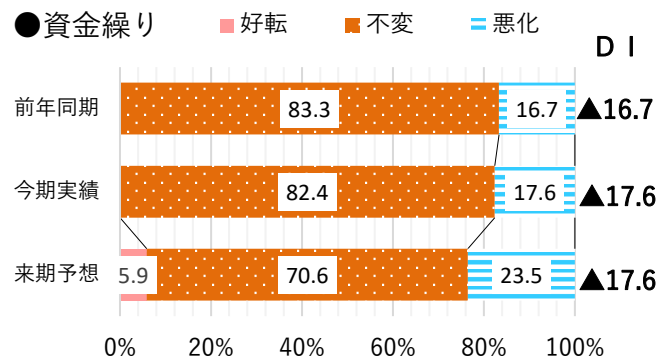
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	0
不変だった	過剰	1
	適正	8
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	1

資金繰り、設備投資

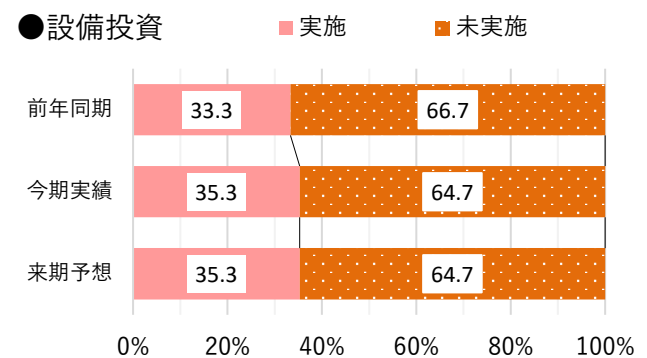
今期の資金繰りDIは▲17.6で、前年同期と比べ0.9ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの横ばいを予想しています。



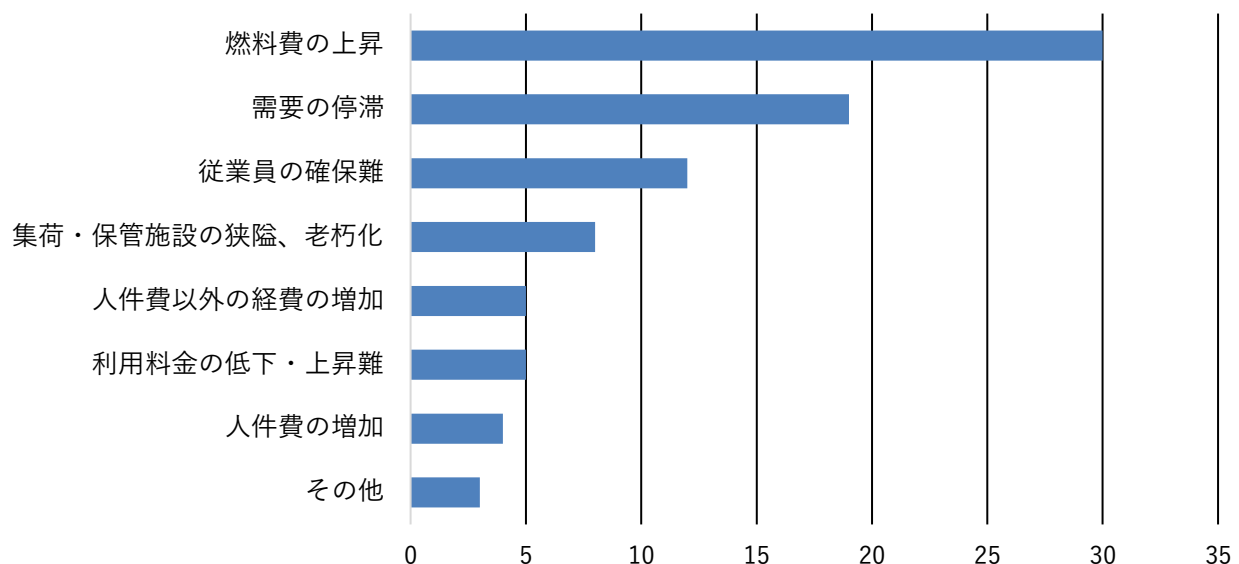
設備投資を実施した企業の割合は35.3%で、前年同期と比べ2.0ポイント上昇しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、
「付帯施設」、「OA機器」(同位)、2位が「集荷・保管施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は35.3%で、横ばいを予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「燃料費の上昇」、2位が「需要の停滞」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 貨物減少により、売上が減少した。乗務員不足と燃料価格の高騰で、業況が悪化した。(道路貨物運送)
- 燃料費が大幅に上昇したが、運送料への転嫁は難しい。この状況は当面続くと思う。(道路貨物運送)
- 出荷量の減少による売上の減少と燃料高騰の影響で、利益が減少した。(道路貨物運送)
- 軽油価格の高止まりにより、採算が悪化した。(道路貨物運送)
- 燃料価格の高騰が課題だ。(道路貨物運送)
- 経済回復のスピードが、変異株の感染拡大のスピードに追いついておらず、状況は厳しさを増している。難局を乗り切る方法を考えたい。(道路旅客運送)
- 観光客の減少と、まん延防止等重点措置によって夜間の利用者が減少したため、売上が大幅に減少した。原油価格の上昇に伴い、LPガスも値上げしたため、燃料費の負担が大きい。(道路旅客運送)
- コロナ禍による地域経済の縮小や、消費マインドの冷え込みにより業況の悪化が続く。(道路旅客運送)
- 燃料価格が上昇し、売上が減少した。(道路旅客運送)
- コンテナ船の入港遅れのため、入庫貨物は減少したが、年度通しての業況に大きな変化はない。(倉庫)
- 入出庫量に大きな変化はなかった。(倉庫)
- 依然として新型コロナウイルスの影響による旅客の減少が続いている。経済の停滞に伴い、貨物の動きも停滞している。燃料費の高騰も業況の悪化につながった。(水運)

[来期の業況について]

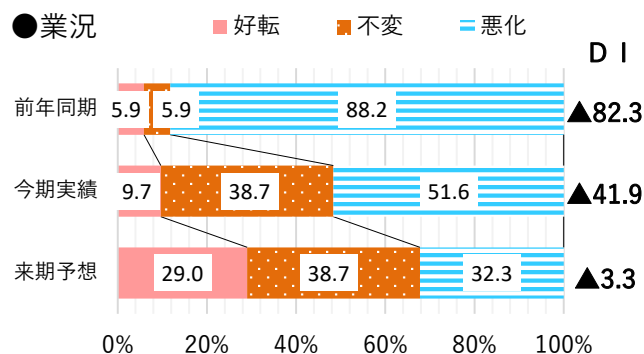
- 燃料費の高騰が続き、タイヤ等車両消耗品の価格引き上げが予想される。(道路貨物運送)
- 燃料価格の高騰や貨物の減少等、今期と同様の状況が続くと思われる。(道路貨物運送)
- 料金交渉を進めて、利益の増加を目指す。(道路貨物運送)
- 軽油価格の高止まり傾向が続くと思う。(道路貨物運送)
- 運賃改定の影響で、乗り控えも想定される。現在の利用客数や燃料費の上昇傾向を考えると、採算の好転や資金繰りの改善は限定的だろう。(道路旅客運送)
- 従業員不足や、燃料等の経費の高騰により、厳しい業況を見込む。(道路旅客運送)
- 売上の回復を予想する。(道路旅客運送)
- 入庫が延期していた貨物が到着するため、売上の増加を見込んでいる。(倉庫)
- 入庫量の減少と、出庫量の増加を見込む。(倉庫)
- 燃料費の上昇を見込む。今後のロシア貿易の見通しが立たない。(港湾運送)
- 運行計画、配船の減少が見込まれる。コロナ禍や東欧情勢の悪化、コンテナ不足による物流の停滞が続くと思われる。昨年の干ばつの影響で、農産物の輸送量が減少すると思われる。(水運)

観光業

業況、売上、採算

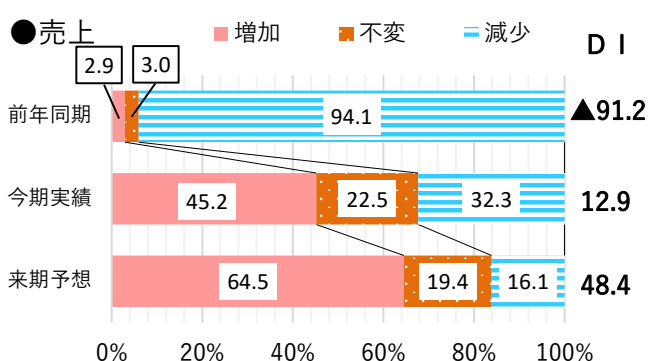
今期（2022.1～3）の業況判断DIは▲41.9で、前年同期(2021.1～3)と比べ40.4ポイントと大幅に上昇しました。

来期（2022.4～6）は、業況の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



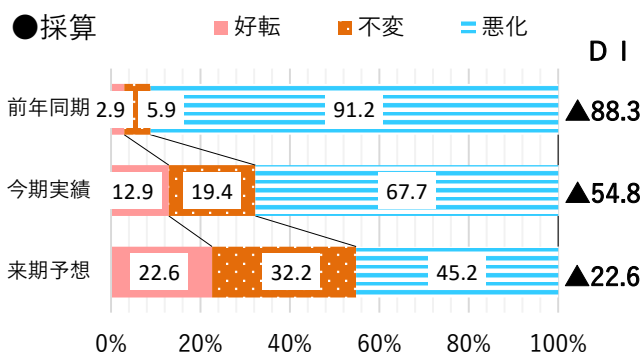
今期の売上DIは12.9で、前年同期と比べ104.1ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が大幅に強まると予想しています。

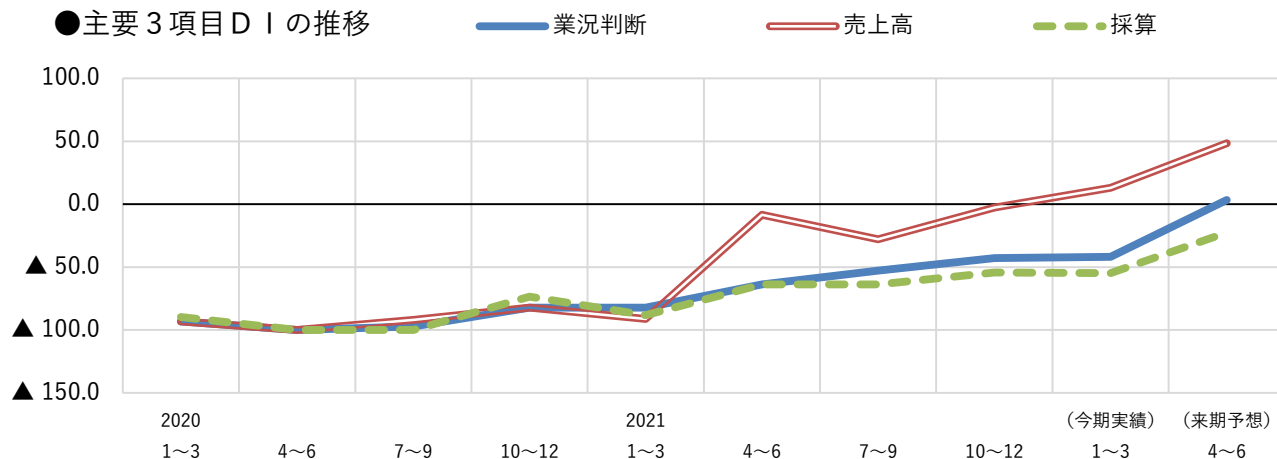


今期の採算DIは▲54.8で、前年同期と比べ33.5ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



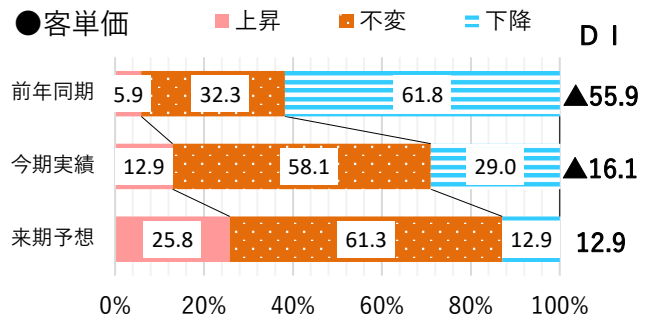
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

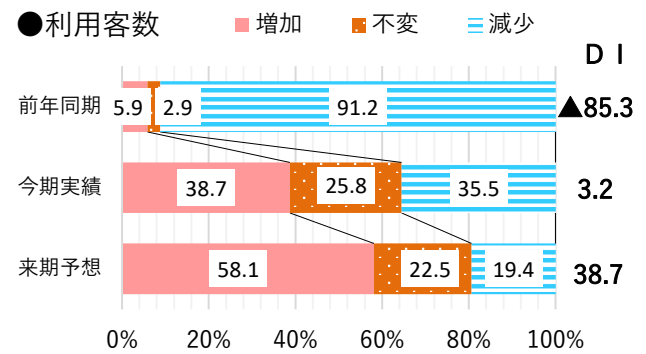
今期の客単価DIは▲16.1で、前年同期と比べ39.8ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、客単価がプラスに転じると予想しています。



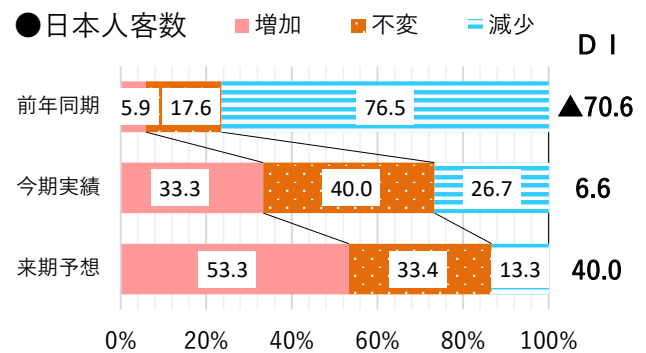
今期の利用客数DIは3.2で、前年同期と比べ88.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、利用客数の増加傾向が大幅に強まると予想しています。



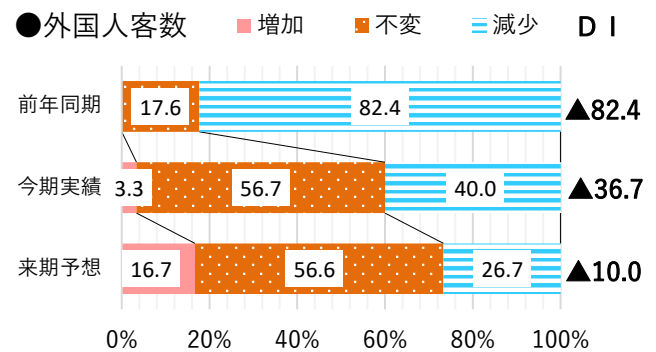
今期の日本人客数DIは6.6で、前年同期と比べ77.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、日本人客数の増加傾向が大幅に強まると予想しています。



今期の外国人客数DIは▲36.7で、前年同期と比べ45.7ポイントと大幅に上昇しました。

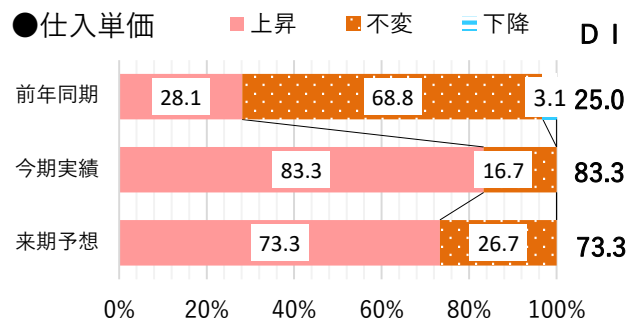
来期は、外国人客数の減少傾向が弱まると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは83.3で、前年同期と比べ58.3ポイントと大幅に上昇しました。

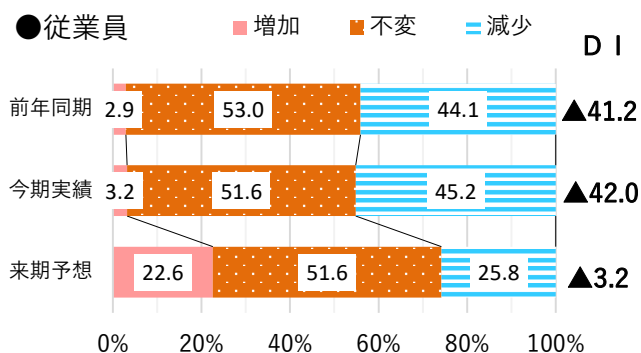
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



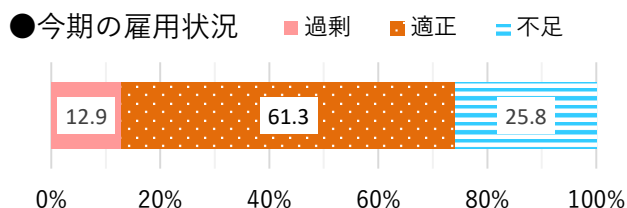
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲42.0で、前年同期と比べ0.8ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は12.9%、適正であると回答した企業の割合は61.3%、不足していると回答した企業の割合は25.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、観光業全体の41.9%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答でした。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	0
不変だった	過剰	1
	適正	13
	不足	2
減少した	過剰	3
	適正	5
	不足	6

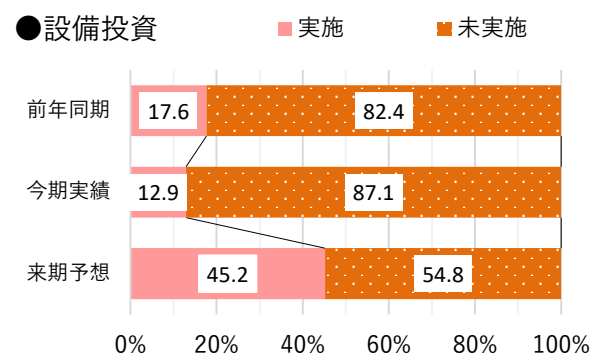
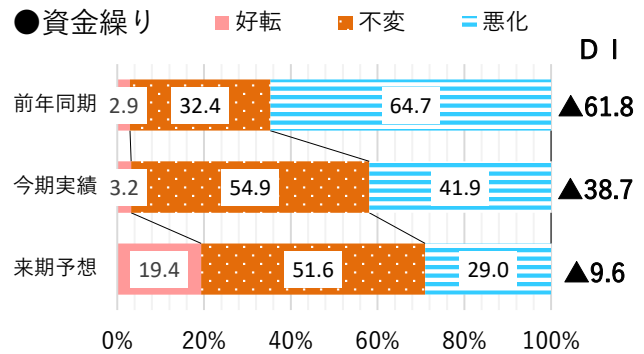
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲38.7で、前年同期と比べ23.1ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。

設備投資を実施した企業の割合は12.9%で、前年同期と比べて4.7%減少しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、「OA機器」（同位）、2位が「建物」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は45.2%で、大幅な増加を予想しています。

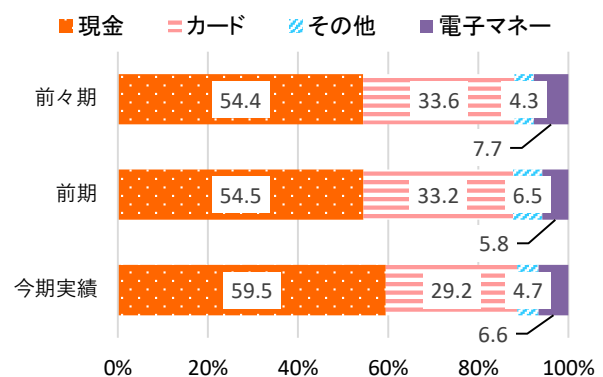


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で59.5%、2位がカードで29.2%、3位が電子マネーで6.6%、4位がその他で4.7%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、GoToイート等の食事券、クーポン券、掛売り、銀行振込、ネット決済です。

●今期利用客の決済方法(%)

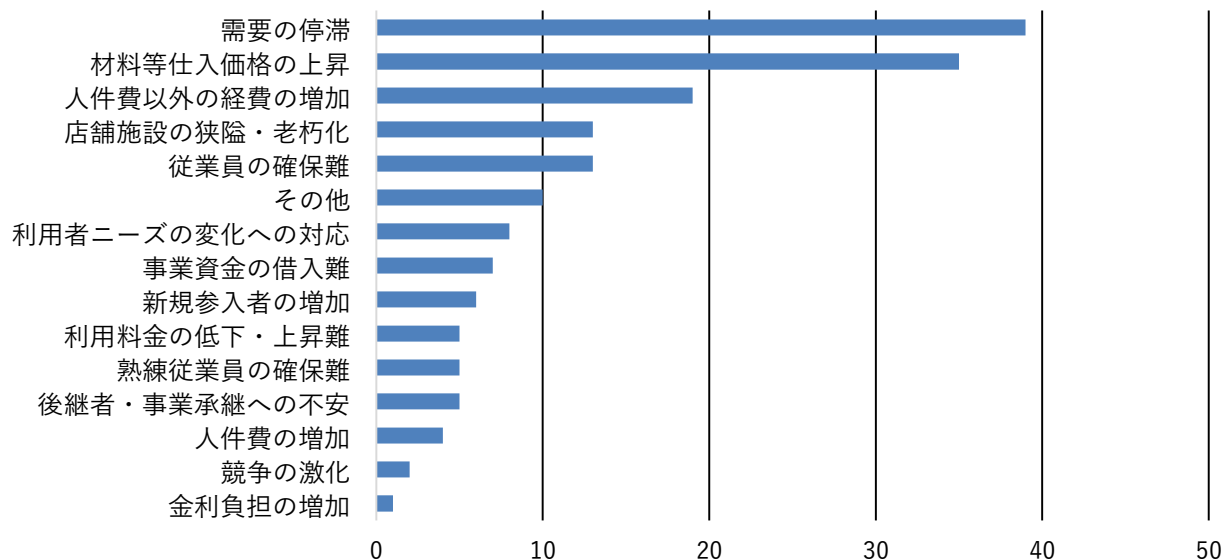


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は38.6%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- コロナ禍前と比べ、売上は30～40%程度落ち込んだ。元々客数に占めるインバウンドの割合は高くないため、インバウンドの減少よりも、国内客の減少による影響が大きいと思う。(ホテル)
- 新型コロナウイルスにより、団体宿泊客の予約がキャンセルとなった。小樽市の感染状況悪化に伴う外出控えにより、飲食部門も悪化した。(ホテル)
- 水道光熱費、ガソリン、その他仕入材料が値上がりした。今後も値上げが続くと思われる。宿泊や飲食による収益は不変だった。(ホテル)
- 通常通りの営業が難しい状況だが、国内客の増加と販路拡大、人員確保に取り組んだ。(ホテル)
- 宿泊は国内客が中心で、インバウンドの利用は無かった。人材の確保に苦戦している。(ホテル)
- ガソリンや灯油の仕入価格が高騰した。(コテージ・ペンション)
- イベント時の観光客や卒業旅行の学生等で人の動きは感じるが、厳しい業況に変わりはない。仕入価格が上昇傾向にあり、値上げせざるを得ない。(飲食)
- まん延防止等重点措置が解除され、新型コロナウイルスが終息しない限り厳しい状況が続く。(飲食)
- 販売価格に転嫁しきれないほど、仕入価格が上昇している。(飲食)
- 新型コロナウイルスが終息しない限り、業況回復は難しい。(飲食)
- コロナ禍の影響で、売上は減少した。客数は少なく、客単価も下降している。諸物価が上昇した影響で、製造原価と販管費の増加が続いており、業績は厳しい。(土産品)
- ロシアとウクライナの戦争によって原油価格と運送料金が上昇し、仕入価格も高騰した。(土産品)
- 業況は改善傾向にあったが、新型コロナウイルスの再拡大により観光客が減少した。(土産品)
- ほぼ営業していなかった昨年同期と比べると売上や客数はプラスで推移した。(土産品)
- 新型コロナウイルスの影響により、観光客が来ない。(土産品)
- 原材料費の高騰や、客数の減少が続いている。(土産品)
- 業況は悪化している。(土産品)
- 大雪の影響で事故が多く、代車としての利用が多かった。コロナ禍だが、道外客によるレジャー利用の件数は昨年同期より20%ほど増えており、好調だった。(レンタカー)

- 降雪量の増加で代車利用が増えた代わりに、一般利用が減少した。（レンタカー）
- 昨年10～12月は前年と比べ人流が回復していたが、1月上旬からオミクロン株が拡大し、利用者が激減した。（社会教育）
- 昨年同期はGoToキャンペーンの休止や、不要不急の外出自粛要請によって、1か月ほど休業していたが、その頃と比べると客数、売上ともに増加した。（水運業）
- 新型コロナウイルスの影響で、利用客が減少した。（船舶貸渡業）
- 前年同期比の売上や利用客数は増加したが、限定的だった。（娯楽業）
- 冬期のため動きが少なく、前年同期と変わらない。（娯楽業）

[来期の業況について]

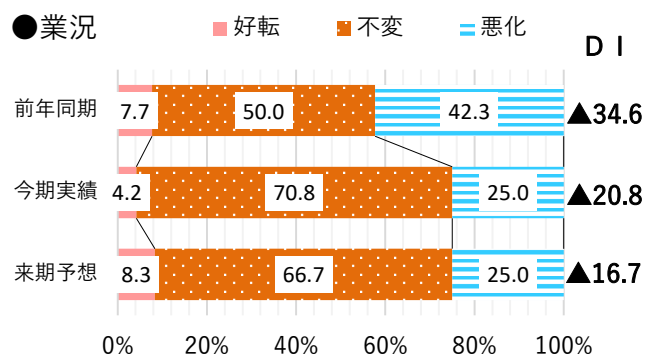
- 人流抑制の緩和とインバウンドの増加により、需要の増加を見込んでいる。人員の確保は引き続き困難だと思われる。（ホテル）
- 新型コロナウイルスの流行が弱まり、好景気に向かうと考えたい。（ホテル）
- GoToキャンペーンが再開されれば、道外需要が見込める。（ホテル）
- 新型コロナウイルスの検査件数が減少し、陽性率が高い状況で人の移動が増えることで、ゴールデンウィークには感染が拡大するのではないかと不安に感じている。（コテージ・ペンション）
- コロナ禍、戦争、自然災害など、個人ではどうしようもない事柄が多く、業況は予想できない。（飲食）
- 新型コロナウイルスが終息しない限り、業況回復は難しい。（飲食）
- 業況に大きな変化はないと思われる。（飲食）
- まん延防止等重点措置が解除されたことによる、客数の増加に期待する。経費の増加が続くので、収益の好転にはつながらないと予想する。コロナ禍も3年目に入り、経営環境は厳しいままだが、業況の好転材料が見つからず、すぐ先の予想も出来ないので、不安感が増すばかりだ。（土産品）
- 新型コロナウイルスの感染拡大に対し、即座にまん延防止等重点措置等の規制がされる状況が続くと、業況の回復は難しい。（土産品）
- 新型コロナウイルス感染者数の減少による、観光客数の増加に期待する。（土産品）
- 新型コロナウイルスの影響により業況は変動するため、予測は難しい。（土産品）
- 入学、卒業時期のため、人出の増加に期待したい。（土産品）
- 業況は不透明だ。（土産品）
- 先行きは不透明だが、道外客の利用増加を想定している。（レンタカー）
- レジャー利用の増加傾向が続くと思う。（レンタカー）
- まん延防止等重点措置の解除により、人流が回復するようお願いしている。（社会教育）
- まん延防止等重点措置が解除され、新型コロナウイルス感染者が減少すれば、売上や客数の増加が期待できる。（水運業）
- コロナ禍が終息すれば、業況の回復が見込める。（船舶貸渡業）
- 繁忙期が終わり、売上や客数の減少が予想される。（娯楽業）
- 業況や売上の横ばいを予想する。（娯楽業）

サービス業

業況、売上、採算

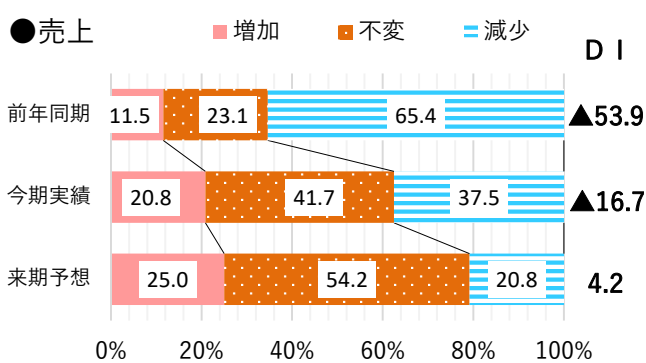
今期（2022.1～3）の業況判断DIは▲20.8で、前年同期(2021.1～3)と比べ13.8ポイント上昇しました。

来期（2022.4～6）は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



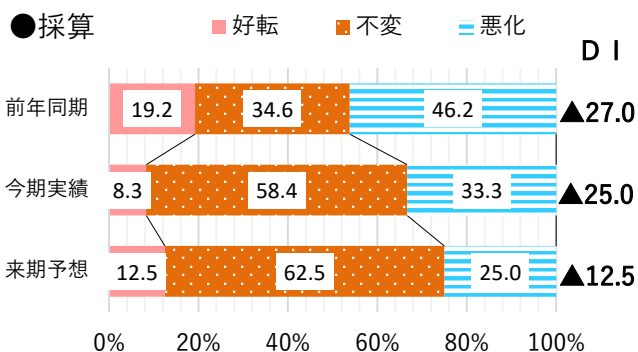
今期の売上高DIは▲16.7で、前年同期と比べ37.2ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、売上がプラスに転じると予想しています。

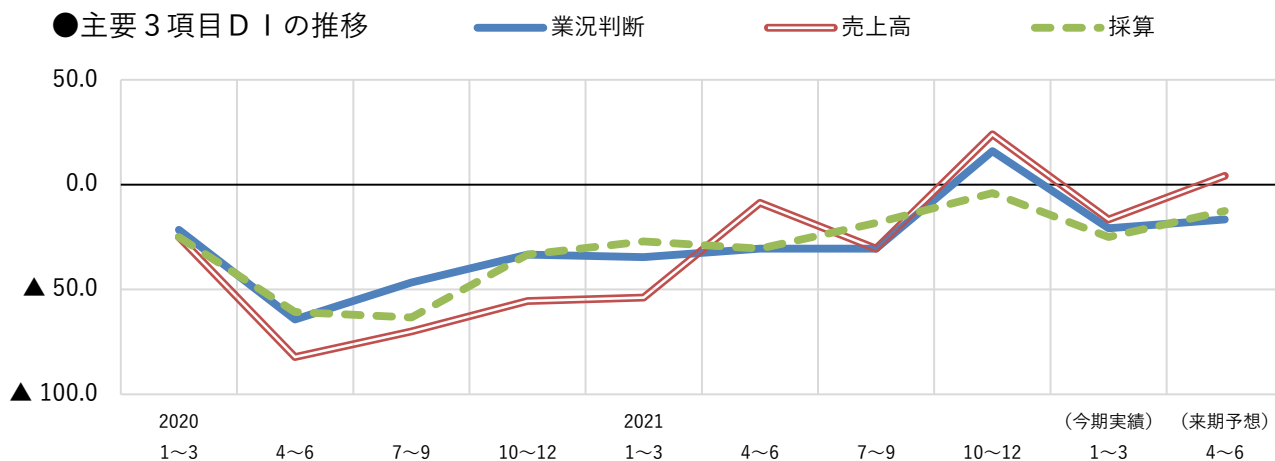


今期の採算DIは▲25.0で、前年同期と比べ2.0ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



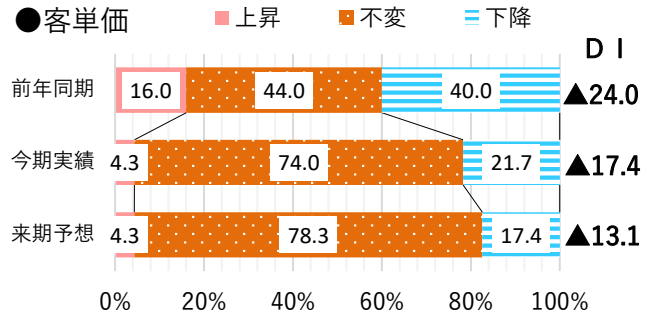
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、仕入単価

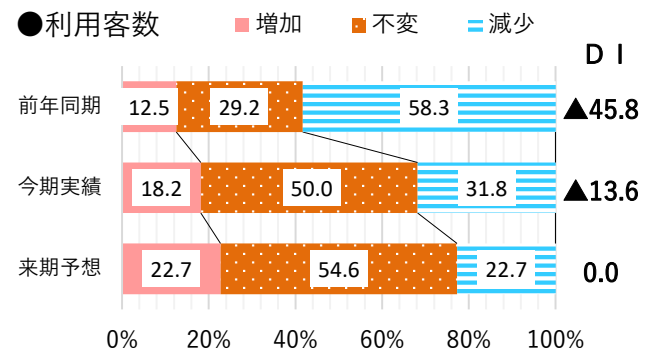
今期の客単価DIは▲17.4で、前年同期と比べ6.6ポイント上昇しました。

来期は、客単価の下降傾向が弱まると予想しています。



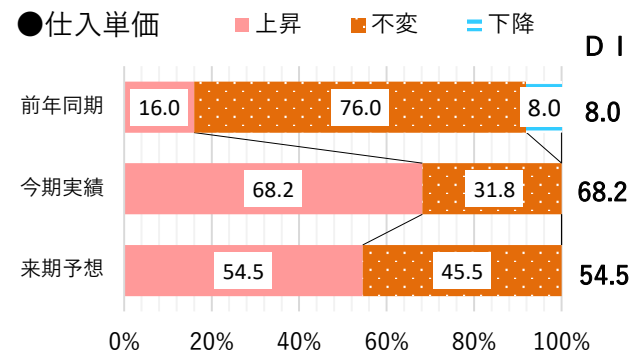
今期の利用客数DIは▲13.6で、前年同期と比べ32.2ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、利用客数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の仕入単価DIは68.2で、前年同期と比べ60.2ポイントと大幅に上昇しました。

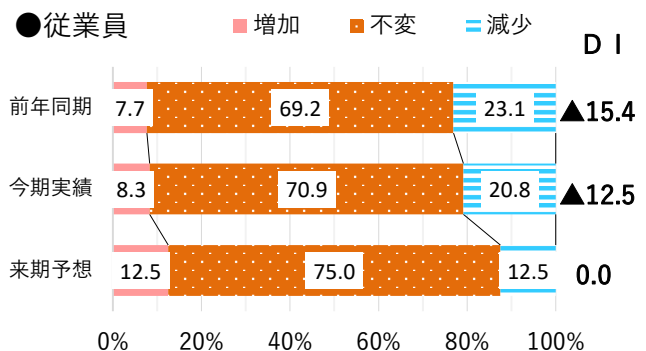
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



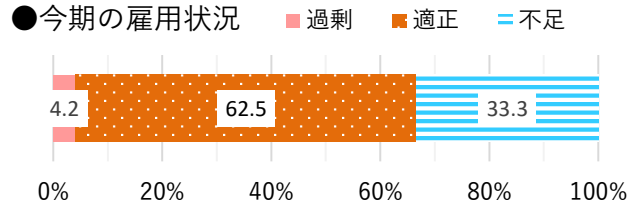
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲12.5で、前年同期と比べ2.9ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は4.2%、適正であると回答した企業の割合は62.5%、不足していると回答した企業の割合は33.3%でした。



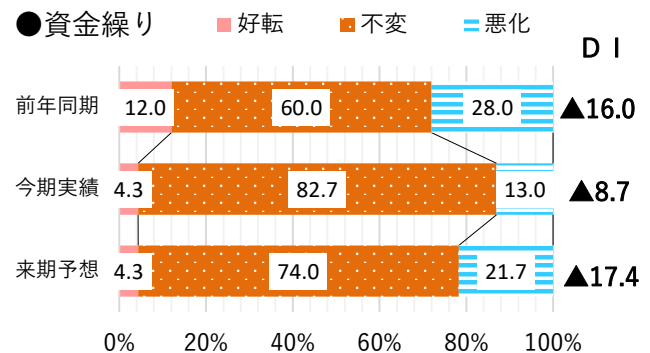
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、サービス業全体の54.1%を占めています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	1
不変だった	過剰	1
	適正	13
	不足	3
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	4

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答でした。

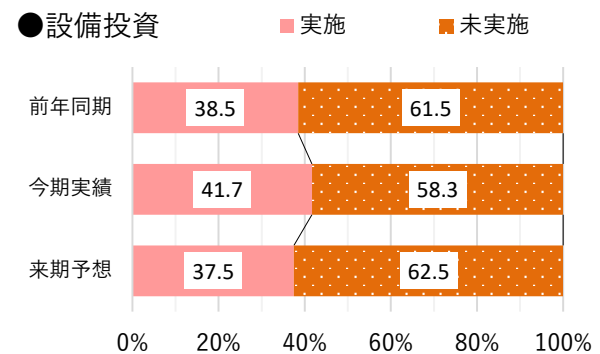
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲8.7で、前年同期と比べ7.3ポイント上昇しました。



来期は、資金繰りの悪化傾向が強まると予想しています。

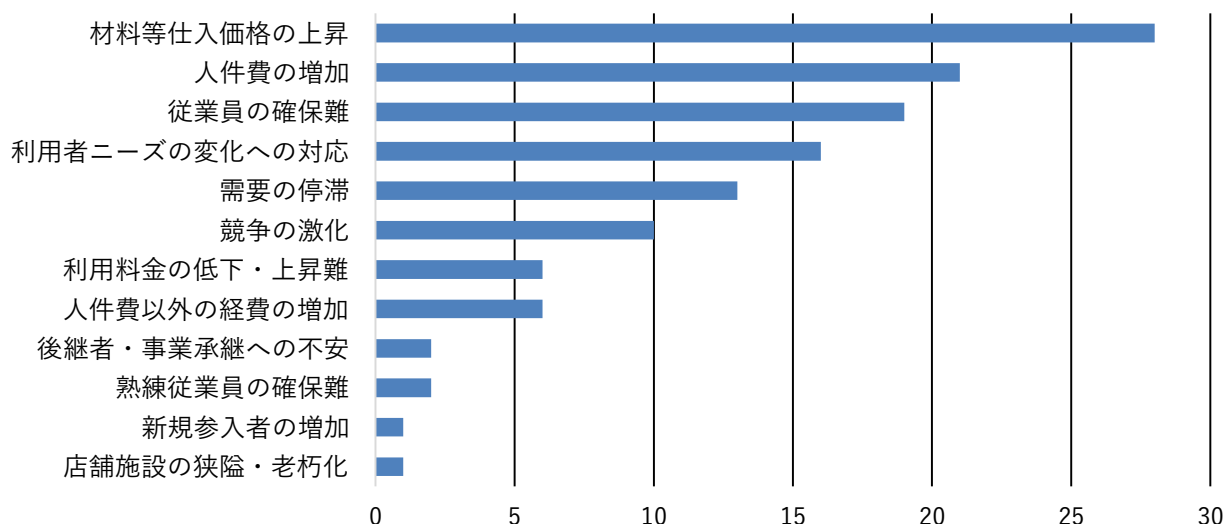
設備投資を実施した企業の割合は41.7%で、前年同期と比べ3.2%増加しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、「車両運搬具」、「付帯施設」（同位）、2位が「OA機器」の順です。



来期に設備投資を計画している企業の割合は37.5%で、減少を予想しています。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- まん延防止等重点措置の適用を受け、テイクアウトのみの営業が続いていたが、利益が上がりづらく、苦しい状況にあった。仕入全般が値上がりしたため、利益率が悪化した。(飲食店)
- コロナ禍で広告主が減少した。紙の価格高騰で印刷費が増加した。人材確保に苦労している。(出版業)
- 昨年同期比で悪化した。人々の外出の機会自体が減っているため、客数が伸び悩んだ。仕入単価は少しずつ上昇している。従業員数と賃金に変わりはない。(美容業)
- 契約内容の見直しで、解約や保険料の減額が増えた。従業員を採用したいが、今は難しい。(保険業)
- 繁忙期につき、集客は例年と変わらぬ水準で安定している。(不動産代理・仲介業)
- 医療関連事業を行っていることもあり、コロナ禍ではあるが業績は伸びている。中国の新疆ウイグル自治区人権問題によって、資材の仕入価格が値上がりした。人材は充足している部署と不足している部署があるが、営業人材が特に不足している。(各種物品賃貸業)

[来期の業況について]

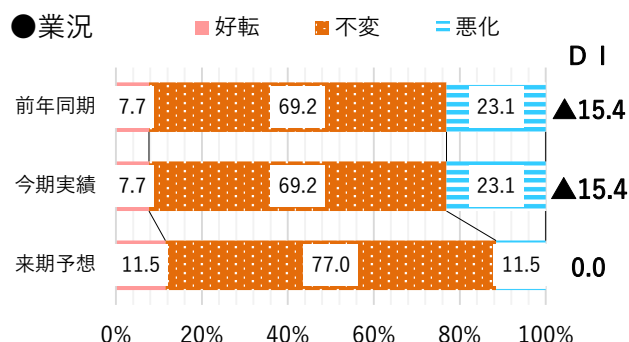
- まん延防止等重点措置が解除され、客足が回復し、ゴールデンウィークからの好転に期待する。(飲食店)
- 食品の仕入先から、5～10%の値上げを予定しているとの通知が届いている。(飲食店)
- 事業の引合いが続いており、ノウハウを新分野で活用できる事例が増えているため、業況の好転に期待している。(旅行代理店)
- 予約を確保できており、今期よりも客数が伸びると思われる。仕入価格は変わらず、従業員数、賃金の据え置きを予定している。売上が増加するなら、従業員の採用や賃金の引き上げを実施したい。(美容業)
- 固定費の縮小と、広告主の増加、人材確保に取り組む。(出版業)
- 原油価格、材料価格の更なる高騰が予想される。(ビルメンテナンス)
- 閑散期に入るため、客数の減少を予測している。(不動産・仲介業)
- ロシア、ウクライナの戦争により、燃料費の更なる高騰が懸念される。請負業務など労働集約型の事業も行っているため、積極的に人材を確保したい。(各種物品賃貸業)

建設業

業況、売上、採算

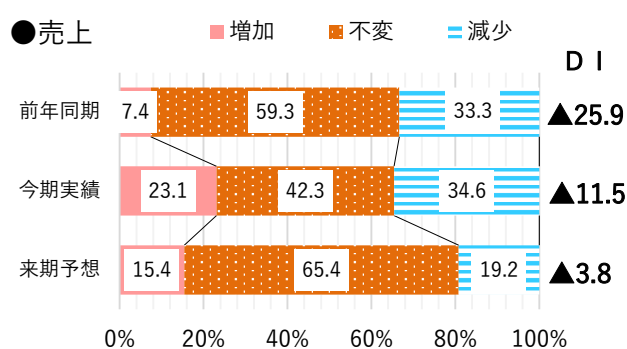
今期（2022.1～3）の業況判断DIは▲15.4で、前年同期(2021.1～3)と比べ横ばいとなりました。

来期（2022.4～6）は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



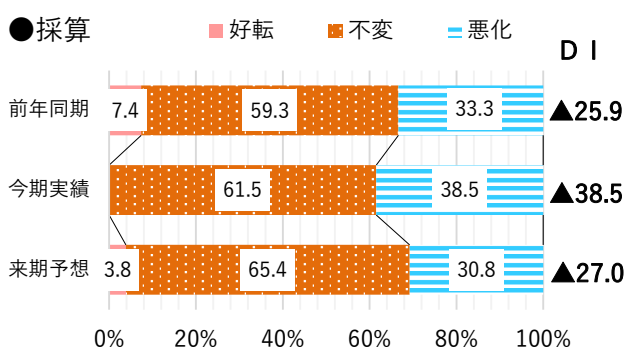
今期の売上高DIは▲11.5で、前年同期と比べ14.4ポイント上昇しました。

来期は、売上の減少傾向が弱まると予想しています。

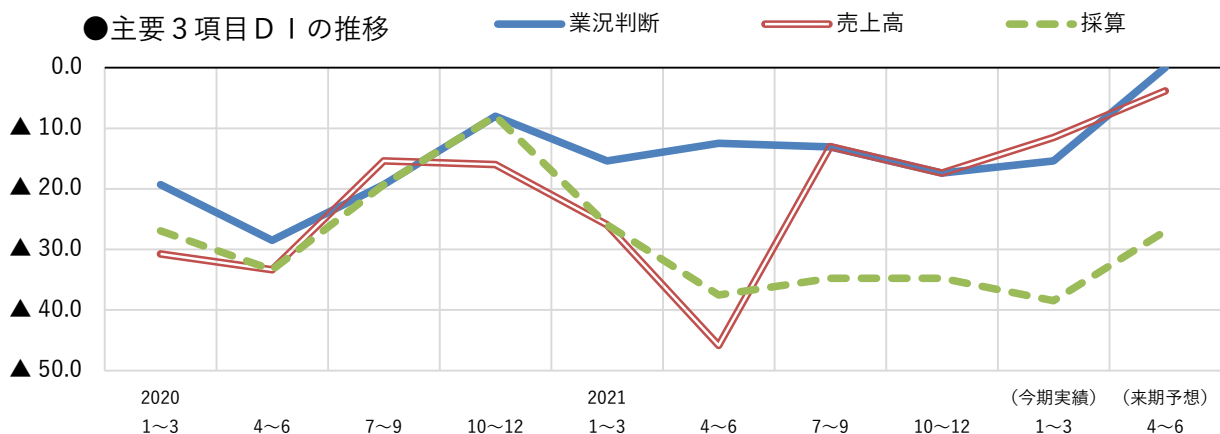


今期の採算DIは▲38.5で、前年同期と比べ12.6ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



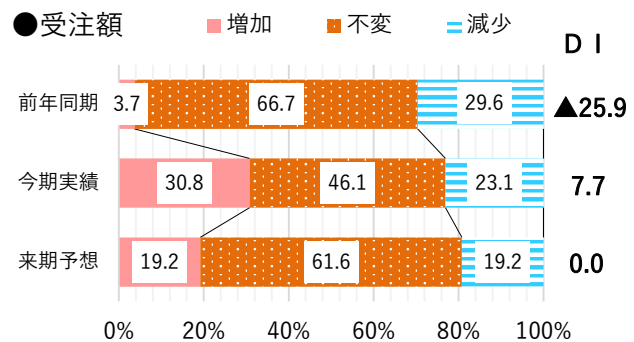
●主要3項目DIの推移



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

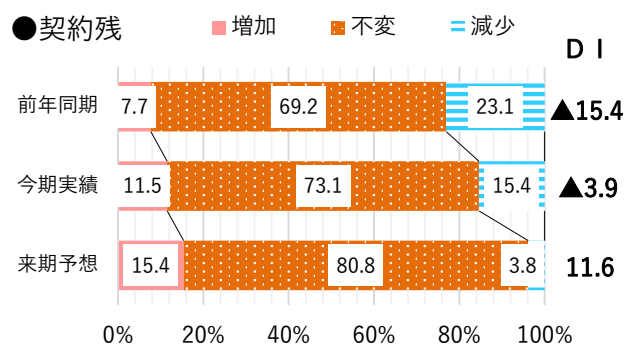
今期の受注額DIは7.7で、前年同期と比べ33.6ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、受注額の増加傾向が弱まると予想しています。



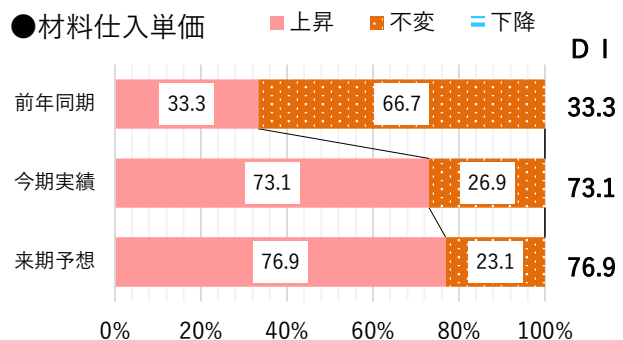
今期の契約残DIは▲3.9で、前年同期と比べ11.5ポイント上昇しました。

来期は、契約残がプラスに転じると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは73.1で、前年同期と比べ39.8ポイントと大幅に上昇しました。

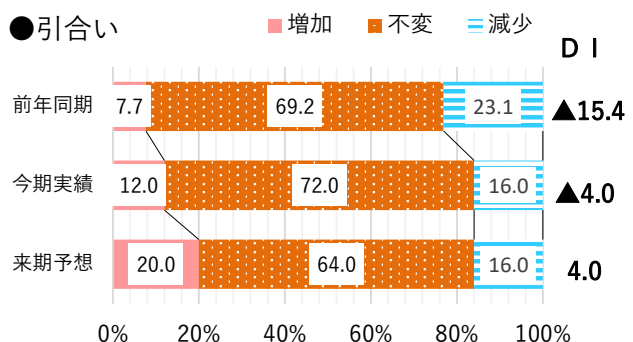
来期は、材料仕入単価の上昇傾向が強まると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲4.0で、前年同期と比べ11.4ポイント上昇しました。

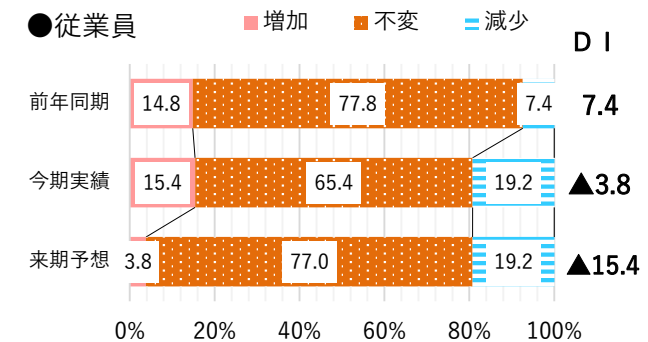
来期は、引合いがプラスに転じると予想しています。



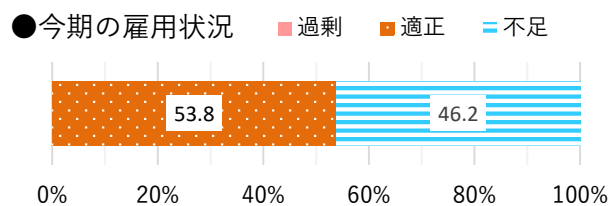
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲3.8で、前年同期と比べ11.2ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、従業員数の減少傾向が強まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は53.8%、不足していると回答した企業の割合は46.2%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、建設業全体の42.3%を占めています。

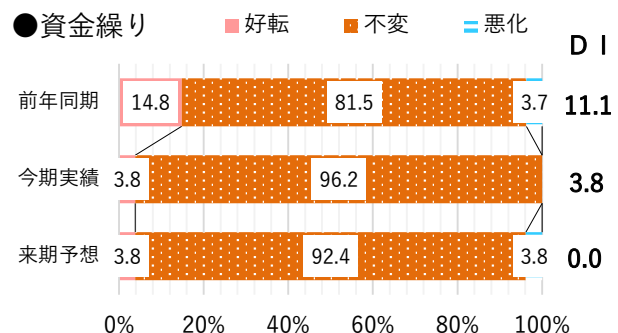
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	11
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	4

資金繰り、設備投資

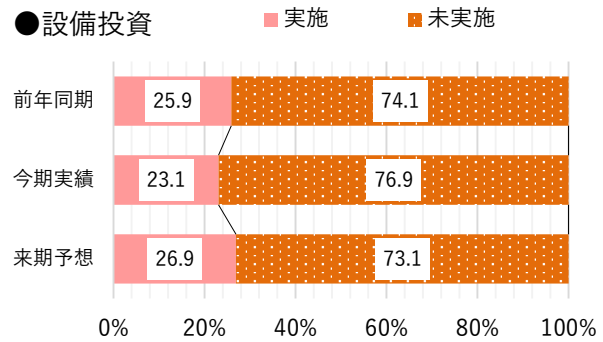
今期の資金繰りDIは3.8で、前年同期と比べ7.3ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。



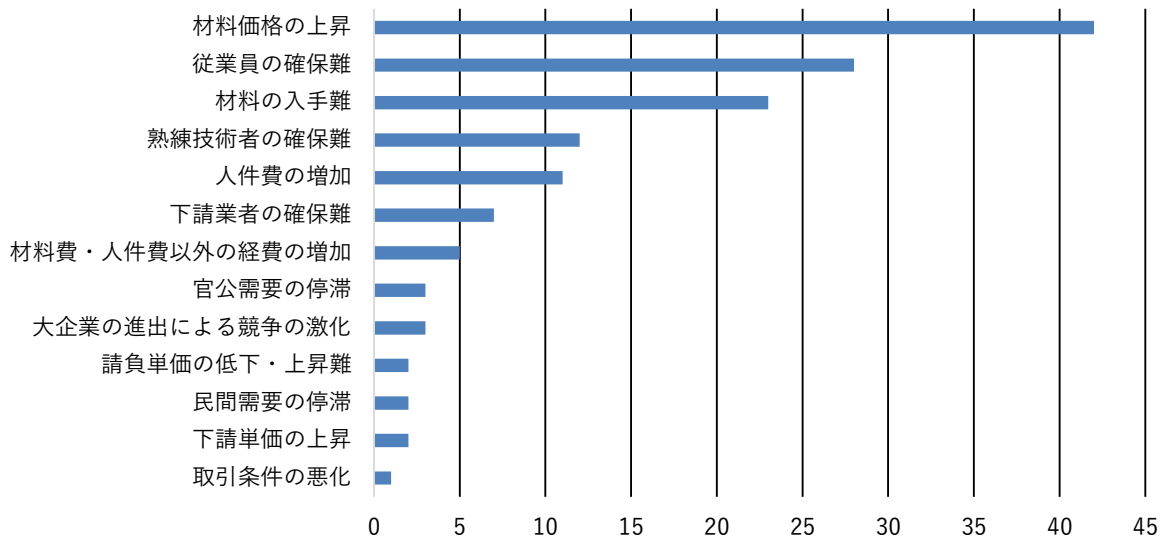
設備投資を実施した企業の割合は23.1%で、前年同期と比べ2.8%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「建物」、「OA機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は26.9%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「材料の入手難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 売上と受注件数は増加したが、材料が手に入らないことによる工期の延長や、材料価格の上昇により、利益率が悪化した。人材不足なので、今後は雇用にも力を入れたい。(一般土木工事業)
- 自社のブランディングと、SDGsを意識した経営を心掛けたい。(一般土木工事業)
- 木材の価格と流通量が安定せず、全事業部門に影響が生じた。(一般土木工事業)
- 仕入単価が上昇し、採算が悪化した。(一般土木工事業)
- 従業員が不足している。(一般土木工事業)
- 年度当初から続く受注不足により、売上が減少した。利益率は変わらない。(一般管工事業)
- 仕入単価上昇の影響と、コロナ禍による機材の入手難の影響で完成工事額が伸び悩んだ。(設備工事業)
- コロナ禍によって元請けの仕事の減少、中断、延期が生じ、完成工事額が減少した。(職別工事業)
- ガラス、ポリカーボネート、アクリルの仕入単価が4～8%上昇した。(職別工事業)
- 材料仕入単価と燃料単価の上昇が続いている。(職別工事業)
- 製品や部品の納期が分からないため、工事等の契約ができない。(電気通信・信号設置工事業)
- 少しずつ好転している。(電気工事業)

[来期の業況について]

- 仕入単価の上昇が続くものの、受注の増加も見込める。(一般土木工事業)

- 材料価格が落ち着くまで、見通しが立たない。（一般土木工事業）
- 公共事業の動向に注目している。（一般土木工事業）
- 春季受注は好調を見込む。（一般土木工事業）
- 引合いは順調なので、期待が持てる。材料の値上げによる利益率の低下が懸念される。（一般管工事業）
- アルミサッシの材料仕入単価が、8～10%上昇すると思われる。（職別工事業）
- 仕入単価の上昇がこのまま続くと、収支の悪化傾向が強まる。（職別工事業）
- 経験者の入社予定があり、好転が見込まれる。（電気工事業）
- 人材確保難、仕入単価の上昇、公共事業の週休2日制推進への対応に苦勞する。（造園業）

市内企業倒産状況

2022年1月~3月

負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は2件、前年同期比不変
負債総額は3億100万円、前年同期比増加

	倒産件数		負債総額
	2件		3億100万円
前年同期比	件数 ±0件 (前年同期 2件)	負債	-2億6,900万円 (前年同期 3,200万円)
■1月 なし			
■2月 縫製業（負債1億100万円：販売不振による破産）の1件が発生した。			
■3月 縫製業（負債2億円：販売不振による破産）の1件が発生した。			

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2022年1月~3月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は59件、前年同期比減少
新設着工住宅戸数は39棟63戸、前年同期比減少

	建築確認申請受付件数		新設着工住宅戸数
	59件		39棟63戸
前年同期比	件数 -6件 (前年同期 65件)	戸数	-5棟+2戸 (前年同期 44棟61戸)
※変更確認又は変更通知を除く。			